



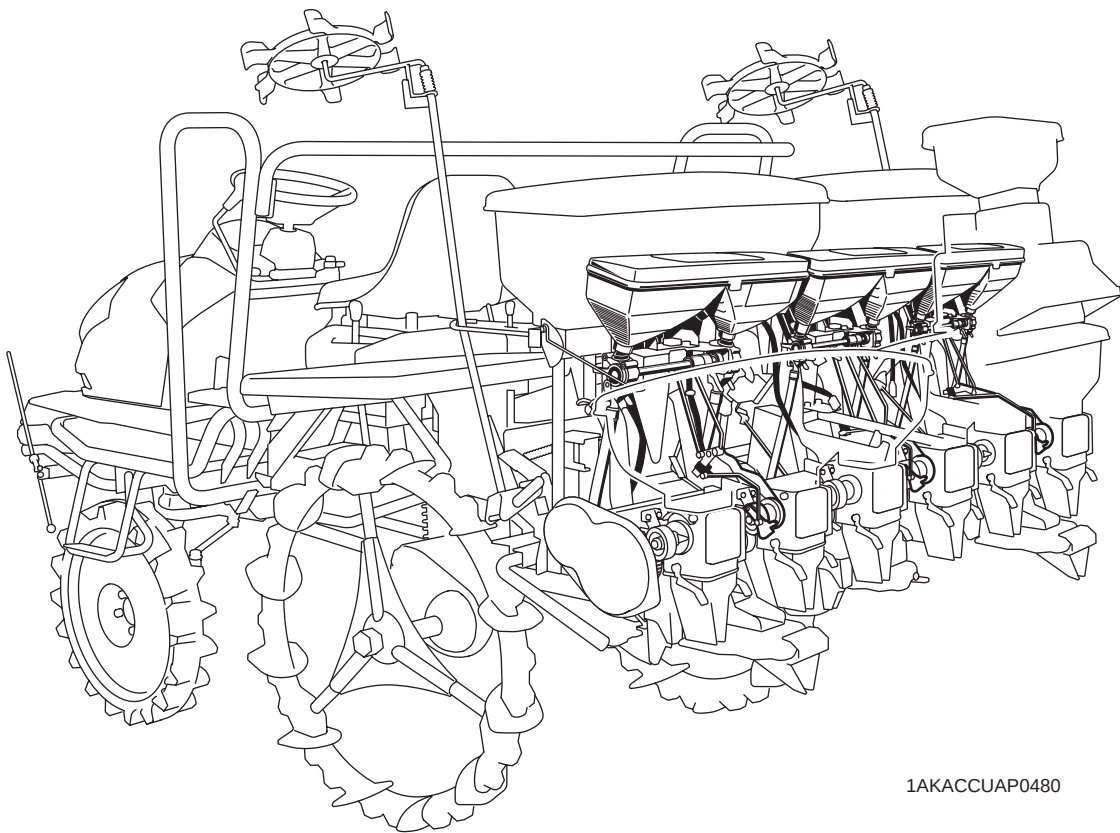
殺虫殺菌剤施薬機（直播機用） SY6-TC

取扱説明書 組付要領書

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、**直播同時殺虫殺菌剤施薬機 SY6-TC** の取扱い方法についてのみ説明してありますので、その他の説明については、直播機の**【取扱説明書】**をご覧ください。

本殺虫殺菌剤施薬機は、鉄コーティング直播と同時に殺虫殺菌剤を土中に施薬するための機械です。



1AKACCUAP0480

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただき、じゅうぶん理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

この取扱説明書は殺虫殺菌剤施薬機についてのものです。直播機については、必ず直播機の取扱説明書をよく読み、理解した上で安全な作業を行なってください。

本製品の使用目的について

本製品は、直播と同時に使用可能な殺虫殺菌剤を施薬する作業機としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造はしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。

特に下記の事項に気を付けてご使用くださいますようお願い致します。

- ・ 直播と同時に使用可能な殺虫殺菌剤の施薬方法は、従来と異なる施薬方法となりますので、最寄の農業改良普及所などの農業指導機関の方々、あるいは購入先などにご相談の上、作業を実施してください。
- ・ 直播機及び施薬機の取扱いは、それぞれの取扱説明書に従い、確実に安全な作業を行なってください。
- ・ 施薬機のサービスに関するご用命は、直播機の型式名・機番をあわせてお知らせ願います。

安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られたの表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。



危険

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



警告

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足

その他、使用上役立つ補足説明を示します。

目 次

安全に作業するために

薬剤の取扱いについて.....	1
施薬機・直播機の準備・メンテナンス時..	1
表示ラベルと貼付け位置.....	2
表示ラベルの手入れ.....	2

サービスと保証について

装置の名称と取扱い

各部の名称とはたらき.....	2
ホッパ.....	2
繰出しロール.....	2
株間調節金具.....	2
調量レバー.....	2
作溝器.....	2
ふく土板.....	2

運転前の点検

日常点検項目.....	4
-------------	---

移動走行と輸送

輸送について.....	5
輸送時の注意.....	5
トラック上での処置.....	5

作業のしかた

施薬のしかた.....	6
ほ場条件と薬剤について.....	6
一般的な注意事項.....	6
施薬後の管理.....	6
作業前の準備.....	7
施薬作業のしかた.....	8
薬剤の排出のしかた.....	8
作業に合わせた各部の調節・調整.....	9
施薬量調節のしかた.....	9
施薬量再調整のしかた.....	11
ふく土板の調節.....	11

メンテナンス

各部の掃除と注油のしかた.....	13
掃除のしかた.....	13
注油のしかた.....	14
定期点検.....	15
廃棄物の処理について.....	15
定期点検一覧表.....	16
給・注油（水）点検一覧表.....	16
繰出しロール・ブラシの点検・交換.....	17

施薬作業後の手入れ.....	19
毎日の作業後.....	19
長期収納時.....	20

施薬機の不調と処置

付表

主要諸元.....	23
付属部品.....	23
消耗部品（純正部品を使いましょう）...	24

組付け作業のしかた

組付け部品.....	25
部品の取扱いについて.....	26
締付けトルクについて.....	26
組付け手順.....	27
組付け前の準備.....	27
施薬機取付け用ステーの取付け.....	29
各フロートの部品組付け.....	31
駆動部アッシの取付け.....	36
チューブアッシの取付け.....	40
施薬用ホッパの取付け.....	40
こまきちゃん、種もみホッパの取付け...	42
ホッパガイドの取付け.....	42

本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で▲危険・▲警告・▲注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

薬剤の取扱いについて

- 使用する薬剤のラベルをよく読み、使用方法、使用上の注意を理解してください。
面積当たりの施薬量や薬剤の種類を間違えると、薬害が発生するおそれがあります。
- 薬剤は安全な場所に保管し、運搬するときは、こぼれないように気をつけてください。
- 使用済みの薬剤の袋は、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 身体に害を及ぼす可能性があるので、取扱時はゴム製手袋やマスクなどの保護具を着用し、取扱後は直ちに手、足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 薬剤の取扱いにはじゅうぶん注意し、万一目や口に入ったときは、すぐに水で洗い流してください。
体調に異常を感じたら、ただちに医師の診断を受けてください。
- ホッパに残った薬剤は、きれいに取去り、元の容器などに入れて幼児の手の届かない所に保管してください。

施薬機・直播機の準備・メンテナンス時

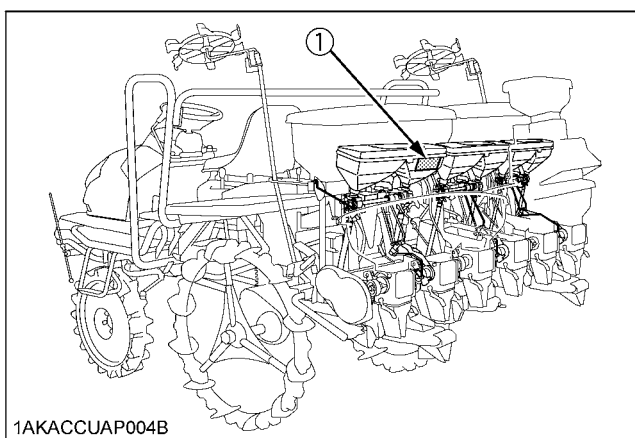
- 施薬機・直播機の可動部分に接触するとケガをするおそれがあるので、機械の準備・メンテナンス時は平たんな場所で、必ずエンジンを停止してから行なってください。

表示ラベルと貼付け位置

①品番 4F651-9432-△

⚠ 警告	
	身体に害を及ぼす可能性があるので、取扱時はマスク等の保護具を着用し、取扱後は直ちにうがい、手洗い等を行ってください。
	駆動部に接触すると手を傷つける恐れがあるため、点検・排出する際には、必ずエンジンを停止すること。

1AKACCUAP002A



1AKACCUAP004B

表示ラベルの手入れ

⚠表示ラベルをよく読み理解して、安全注意事項を守る

- ラベルはいつもきれいにし、傷つけないようにしてください。
- ⚠ 表示ラベルがよごれた場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布で拭いてください。シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれ【ご相談窓口】を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際に、**型式名・製造番号**をあわせてご連絡ください。

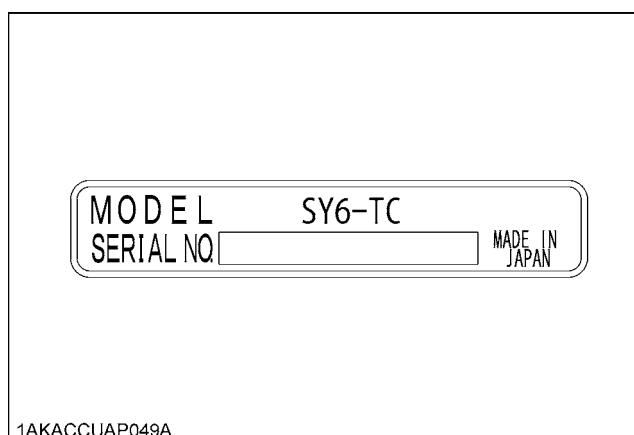
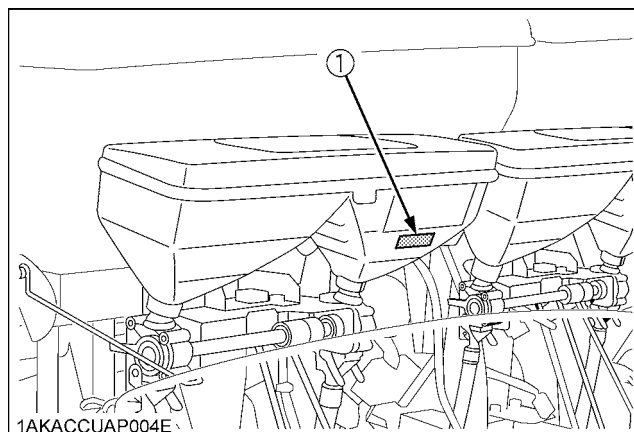
なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。



警告

*** 機械の改造は危険ですので、改造しないでください。**

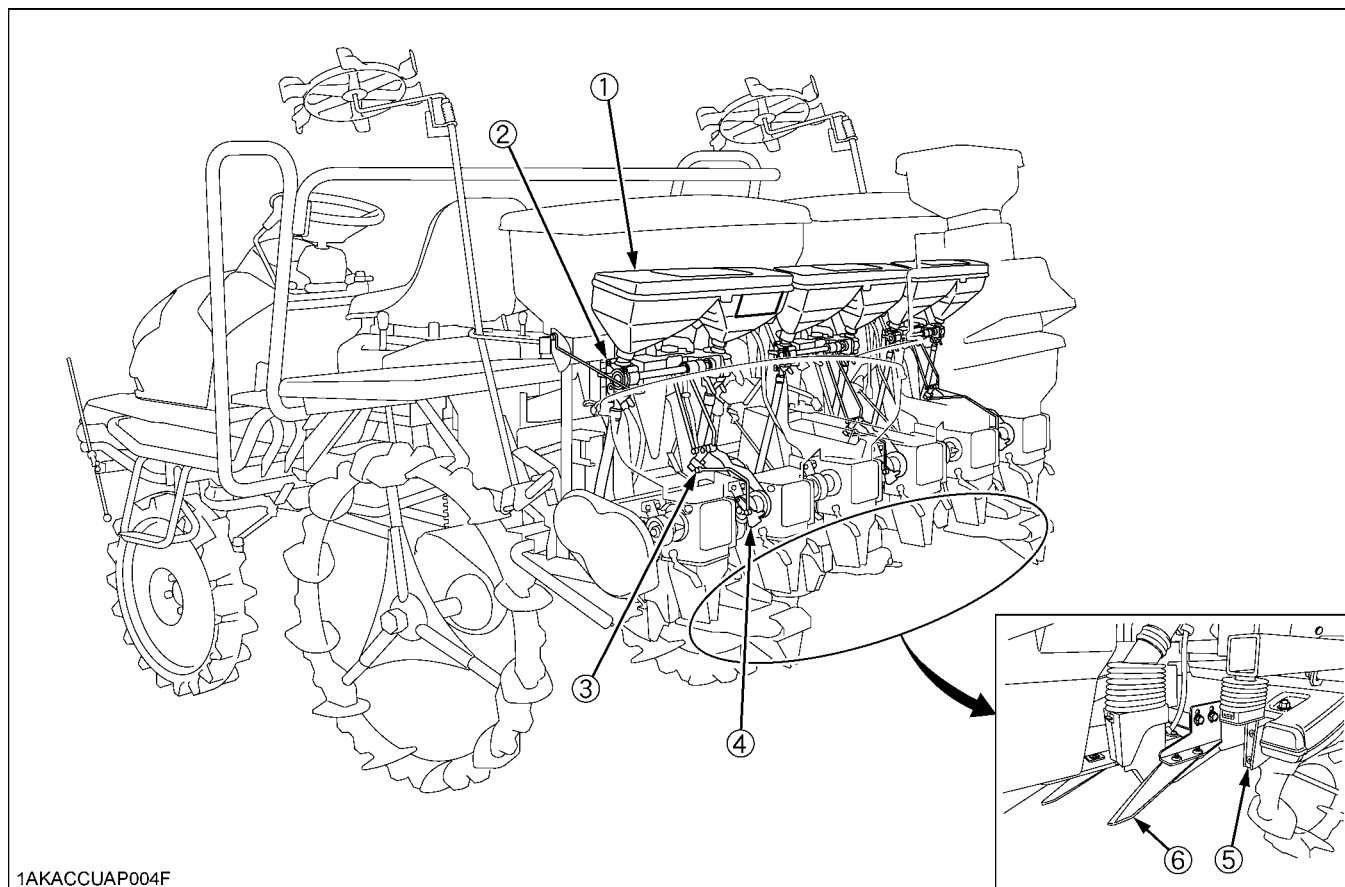
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。



①型式ラベル

装置の名称と取扱い

各部の名称とはたらき



- ①ホッパ
- ②繰出しロール
- ③株間調節金具
- ④調量レバー
- ⑤作溝器
- ⑥ふく土板

■ホッパ

薬剤を入れるところです。

■繰出しロール

薬剤を繰出すところです。

■株間調節金具

株間に合わせた施薬量に変更する金具です。

■調量レバー

施薬量の微調節を行なうレバーです。

■作溝器

薬剤を土中に入れるため、ほ場表面に細い溝をつける部品です。

■ふく土板

作溝器でつけた溝に薬剤を入れた後、泥をかぶせて土中に埋める板です。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は、13 ページを参照。）



警告

- * 平たんな場所で駐車ブレーキを掛け、必ずエンジンを停止してから行なってください。
- * 取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻込まれるおそれがあるので、点検後は必ず取付けてから作業をしてください。
- * 運転前にブレーキや安全装置などの日常点検を行ない、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。

重要

各部への給油と交換

- * 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
- * 使用するエンジンオイル、ミッションオイル、グリースは、指定の【クボタ純オイル・純グリース】を必ず使用してください。
- * 燃料補給の際は、ごみや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

◆ 施業機の回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にごみや泥がたまっていないか点検します。
5. ホッパ内、繰出し部、ホース、ノズル、チューブが濡れていないか点検します。

運転前の点検

日常点検項目

補 足

* 施薬機以外の点検項目については、本機の【取扱説明書】を参照してください。

＜ここを＞➡	＜点検し異常があれば＞➡	＜こうする（処置）＞	参 照 ページ
機体の周りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. ごみや泥などがたまってないか。	1. 修理又は、交換をする。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締め付け又は、部品交換する。 4. 掃除する。	— — 40 13
ホース・チューブ	● 破損や外れはないか。 ● 薬剤が付着してないか。 ● 内側が濡れていないか。	● 交換又は、取付けをする。 ● 掃除する。 ● 水分を拭き取る。	13, 19
作溝器部	● 薬剤や泥が付着してないか。 ● 内側が濡れていないか。	● 掃除する。 ● 水分を拭き取る。	
ホッパ・繰出し部	● 内側が濡れていないか。	● 水分を拭き取る。	

重 要

* 処置したあとに異常が直らないときは、購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

本機，直播機の【取扱説明書】を参照してください。

輸送について

■輸送時の注意

薬剤はホッパからすべて取り出し，ホッパのふたを確実に閉めてください。

■トラック上での処置



警 告

- * 駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

トラックに積込んだあと，直播部を上昇し，油圧ロックレバーで下降防止をしてください。

重 要

- * 施薬機にロープは掛けしないでください。施薬機が破損したり，施薬位置が変化して施薬障害の原因になります。
- * 薬剤を排出せずに輸送すると，施薬機の一部が破損するおそれがあります。

作業のしかた

施薬のしかた

■ほ場条件と薬剤について

殺虫殺菌効果を得られるほ場条件を整えた状態で適正な薬剤を使用してください。

◆ ほ場条件

ほ場条件については、直播機の【取扱説明書】を参照してください。

補 足

* 正常な殺虫殺菌効果を得るためには、適正なほ場の硬さが必要です。また、ほ場条件により、完全にふく土がされない場合や施薬される薬剤の溝がじゅうぶんに形成されない場合があります。ほ場が硬過ぎる又は、軟らか過ぎると下記のような異常が発生するおそれがあります。

● 硬過ぎる場合 …

- ・ 薬剤がじゅうぶんにふく土されないため、薬剤の効果が薄れてしまう。
- ・ もみが溝に落下して発芽率が低下する。

● 軟らか過ぎる場合 …

- ・ 施薬される薬剤の溝がじゅうぶんに形成されないため、薬剤がほ場の表面に露出して薬剤の効果が薄れてしまう。
- ・ もみがほ場に埋没して発芽率が低下する。

◆ 薬剤について



警 告

- * 薬剤の取扱いの説明をよく読んでください。
- * 幼児の手の届かないところに保管してください。
- * 薬剤の取扱いにはじゅうぶん注意し、万一目や口に入ったときはすぐに水で洗い流してください。体調に異常を感じたら、すぐに医師の診断を受けてください。

使用方法に、【播種同時施薬機を用いて土中施薬する】と記載されている薬剤を必ず使用してください。

重 要

- * 指定の薬剤以外は絶対に使用しないでください。除草剤などを間違えて使用すると、施薬機の破損や発芽不良の原因となるなど異常が発生するおそれがあります。
- * 指定以外の薬剤を使用するとホoppa内が腐食する可能性があります。作業終了後は速やかに薬剤を全量排出してください。

補 足

- * 薬剤の袋に記載の使用方法を必ず守ってください。
- * 薬剤の選定にあたっては、ほ場条件や気象条件が地域によって異なります。最寄りの指導機関に相談いただくか、指導方針に従ってください。

■一般的な注意事項

1. 鉄コーティング直播に適した品種の種子を選んでください。
2. 直播に適したほ場硬さにしてください。
(ほ場に指ですじを作った時に、すじが残り、横に土が盛り上がり、線状に残る程度が適当です。)
3. 直播時、ほ場がひび割れない程度の落水状態にしてください。

■施薬後の管理

適正な薬剤を使用し適正に散布しても、その後管理によっては薬害が出る場合があります。薬剤のラベルに記載されている水田の管理事項は、必ずお守りください。

■作業前の準備



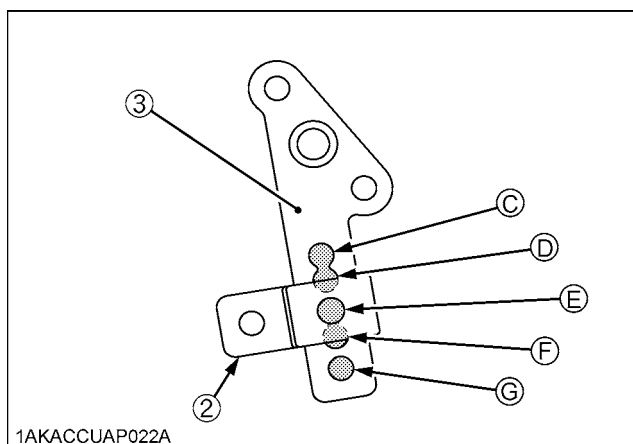
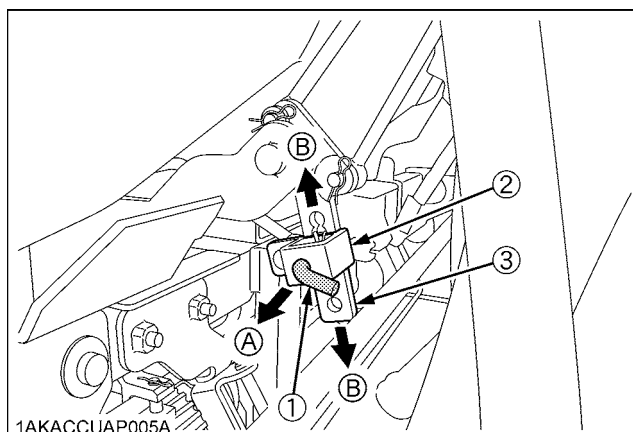
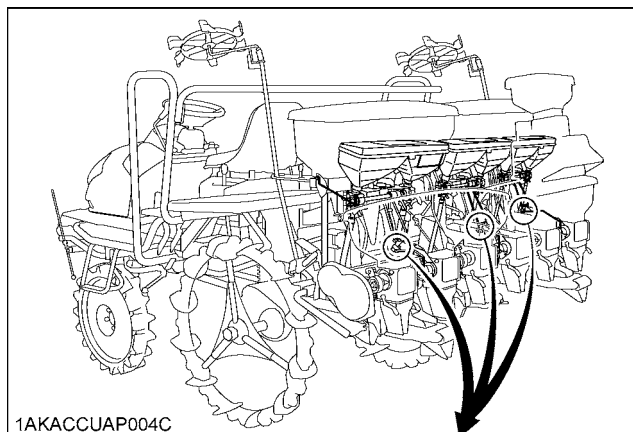
警告

*** 平たんな場所で、必ずエンジンを停止してから行なってください。**

1. 各部の点検を行ない、汚れや詰まりがあるときは掃除を行なってください。また、破損や摩耗があるときは交換を行なってください。

補 足

- * 作業を行なったあと長時間放置すると薬剤がホッパ内や繰出しロール内に固着し、翌日以降の施薬作業で施薬されないなど異常が発生するおそれがあります。
 - * 繰出しロールやチューブを取外して掃除や点検などを行なったときは、薬剤漏れが発生しないように正しく取付けてください。(13 ページ参照)
2. 直播機側の株間に合わせて株間調節金具の穴位置を決めます。
 - (1) 直播機側で設定した株間（直播機の取扱説明書参照）を確認します。
 - (2) 株間調節ホルダを株間調節金具に固定している固定ピンを取付穴から抜いたあと、株間調節ホルダを上側又は、下側に動かして、直播機の株間の数値と同じ数値の穴に固定ピンを差し込みます。



- | | |
|-----------|------------------------|
| ① 固定ピン | ▲ 抜く |
| ② 株間調節ホルダ | ▲ 動かす (調節) |
| ③ 株間調節金具 | ▲ 取付穴 [24] (株間 : 24cm) |
| | ▲ 取付穴 [21] (株間 : 21cm) |
| | ▲ 取付穴 [18] (株間 : 18cm) |
| | ▲ (出荷標準位置) |
| | ▲ 取付穴 [16] (株間 : 16cm) |
| | ▲ 取付穴 [14] (株間 : 14cm) |

補 足

- * 出荷時は株間 **[18]** (18cm) の穴位置です。
- * 調節する穴位置は、本機側の株間調節と同じ **[14]** (14cm), **[16]** (16cm), **[18]** (18cm), **[21]** (21cm), **[24]** (24cm) の 5 箇所です。

- (3) 他の株間調節金具も同じ要領で調節を行ないます。(3 箇所)

作業のしかた

3. ホッパに薬剤を入れます。

補 足

- * 適正な施薬量は、薬剤の袋に基準値が記載されています。1kg/ 1 反が主流です。
- * 施薬量の設定は薬剤の種類により大幅に変わる場合があります。使用前には必ず計量を行ない、適正な繰出し量を設定してください。
- * 薬剤が濡れると、詰まりの原因になります。雨天時は特に薬剤が濡れないようにじゅうぶん気をつけてください。

4. 施薬量の調節を行ないます。(9 ページ参照)

■施薬作業のしかた

◆ 施薬ムラ（生育ムラ）の防止

施薬ムラがあると、苗の成長異常となるおそれがあるので下記事項に注意してください。また、特に水の多いほ場では作溝器に薬剤が詰まり、施薬ムラの原因となるため、フィットセンサで適正なフロート感度に調整したあと、下記事項の **1. ～ 3.** を遵守してください

1. 播種始めは低速で行なってください。播種始めを高速で行なうと最初の 2 ～ 3 株に施薬されない場合があります。
2. 必ず減速してから停止してください。急停止すると多施薬になる場合があります。
3. 播種速度は一定の速さで、まっすぐ行なってください。施薬ムラやふく土異常の原因となります。
4. 枕地の播種や変形田での播種時、交差播きや無播種箇所を少なくしてください。多施薬になる場合があります。

◆ 施薬作業中の確認

1. 作業中にふく土状態やホッパ内の薬剤の減り具合に異常がないか確認しながら作業を行ないます。

補 足

- * 直播部を降した状態で旋回すると作溝器の破損の原因となったり、詰まりの原因となります。
2. 薬剤が無くなる前に、早めに補給してください。

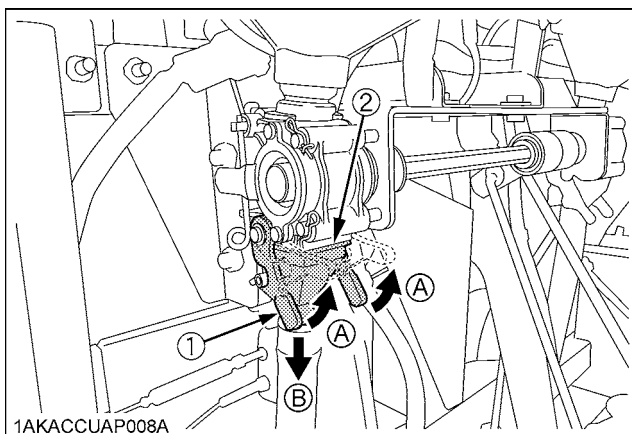
■薬剤の排出のしかた



- * 平たんな場所で、必ずエンジンを停止してから行なってください。
- * 薬剤の取扱いにはじゅうぶん注意し、万一目や口に入ったときはすぐに水で洗い流してください。体調に異常を感じたら、すぐに医師の診断を受けてください。

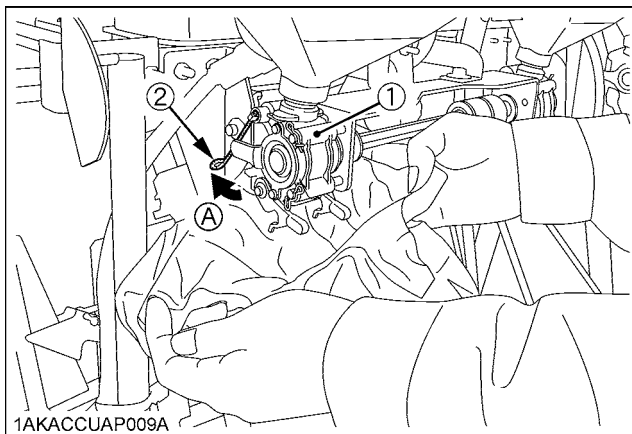
◆ ホッパ内の薬剤の排出のしかた

1. ロートロックレバーを上げて解除し、ロートを下側に引いて取外します。



- ①ロートロックレバー ②ロート
A 解除 B 取外す

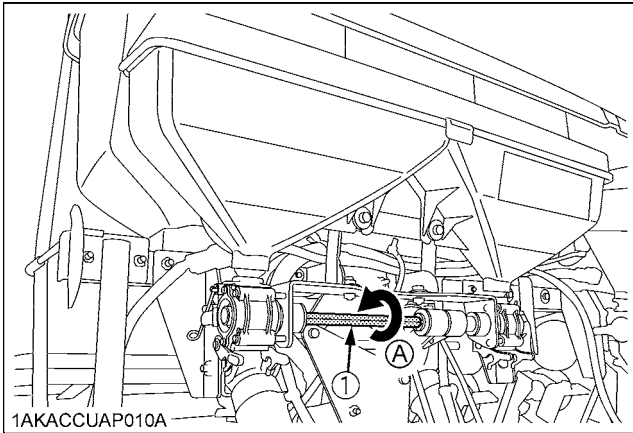
2. ロールケースの出口を袋又は容器などで受け、ブラシロックレバーを機械前方に回して排出します。



- ①ロールケース ②ブラシロックレバー
A 機械前方に回す

◆ 繰出しロール溝の薬剤の排出のしかた

1. 施薬用の六角軸を後回りに回します。

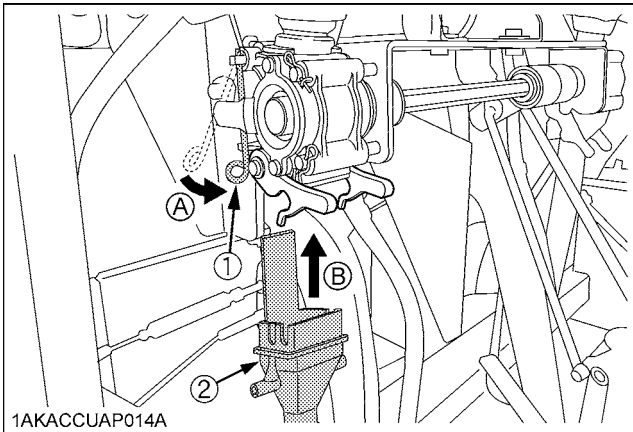


①六角軸

Ⓐ回す

補 足

- * 繰出しロール溝内の薬剤を排出するとき、六角軸を回転すると繰出しロールは2条分回転するため、片方のロール下にも薬剤排出用の袋又は容器を用意してください。
- * ロック位置に戻さないとロートを差込めないため、ブラシロックレバーをロック位置に確実に戻してください。



①ブラシロックレバー
②ロート

Ⓐロック位置
Ⓑ差し込む

作業に合わせた各部の調節・調整

■ 施薬量調節のしかた



- * 平坦な場所で、必ずエンジンを停止してから行なってください。

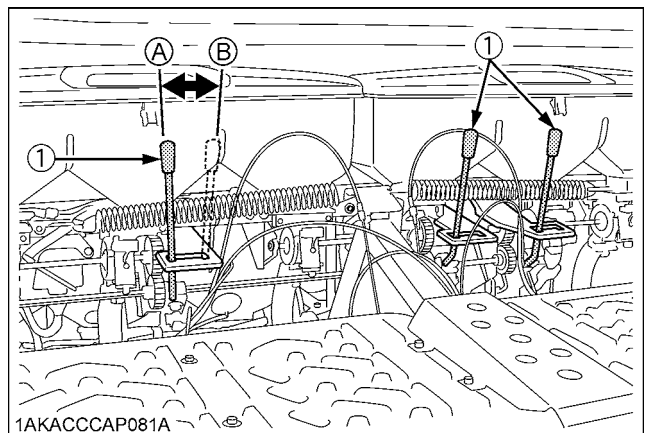
補 足

- * 薬剤の形状・粒径・比重により施薬量が変わるため、作業前に施薬量の調節を行い、適正量が施薬されるようにしてください。
- * 施薬量の調節には未開封の薬剤を使用してください。
- * 施薬量の調節を行なうときは、種もみ用ホッパに種もみを入れないでください。種もみ用ホッパ内に種もみが入ったまま全条同時調節レバーを回転させると、薬剤と同時に種もみも繰出されてしまいます。

1. 薬剤をホッパに入れたあと、繰出しロール全条の開度を全開状態にします。

補 足

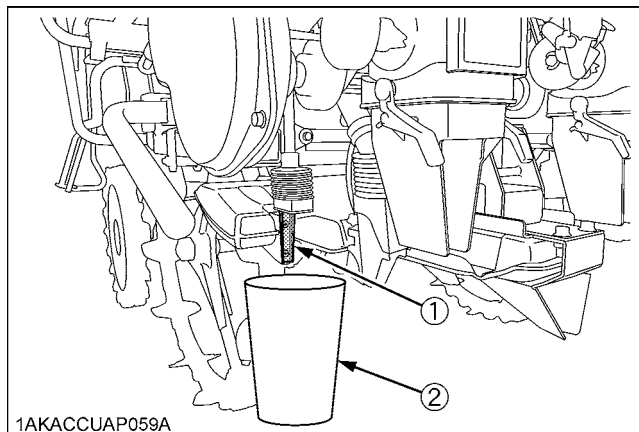
- * 施薬量の調節を行なうとき、繰出しロールの開度が変わり、正確な施薬量を測れないおそれがあるため、繰出しロール全条の開度を必ず全開状態にしてください。
- 2. あぜぎわクラッチレバーを全て【切】位置にします。



①あぜぎわクラッチレバー Ⓐ入
Ⓑ切

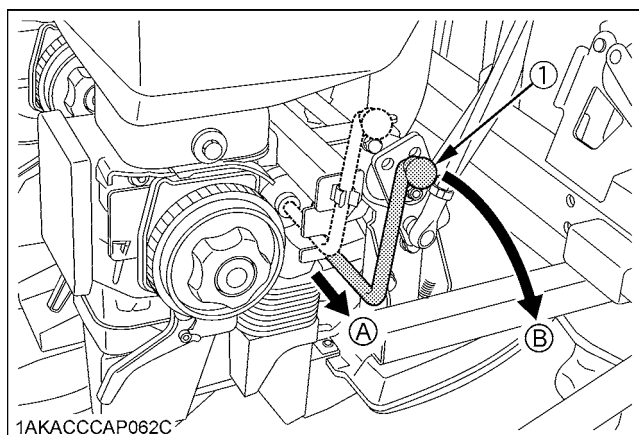
作業のしかた

3. 全条全ての作溝器の下側に容器を置きます。
4. 直播機のエンジンを始動後、播種クラッチレバーを操作し、施薬機の作溝器を容器の近くまで下げたあと、油圧ロックレバーを【閉】位置にして直播部の下降防止をします。
5. エンジンを停止します。



- ①作溝器
②容器

6. 全条同時調節レバーを引出したあと、各ホースから薬剤が出てくるまで右回りに回して繰出し量を計測する準備を行ないます。



- ①全条同時調節レバー
A 引出す
B 右回転

補 足

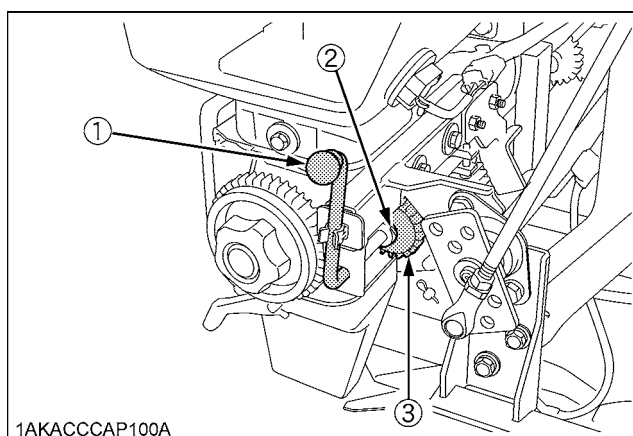
- * 全条同時調節レバーを回すときは、直播部が揺れますのでゆっくり回してください。
- * 全条同時調節レバーを手前に引いた状態で回さないと、薬剤が繰出されません。

補 足

- * 施肥量の調節を行なうとき、繰出しロールの開度が変わり、正確な施肥量を測れないおそれがあるため、繰出しロール全条の開度を必ず全開状態にしてください。

重 要

- * あぜぎわクラッチレバーが【入】位置の状態、繰出しロールの開度が全閉又は全開状態のとき、全条同時調節レバーを回すと重くなり無理に回すと22ギヤの割ピンが破損するおそれがあります。また、割ピンが破損したときは購入先に連絡して新しい割ピンに交換してください。



- ①全条同時調節レバー
②割りピン
③ 22 ギヤ

7. 下表の【レバー回転数】を参照して株間を確認したあと、全条同時調節レバーを右回りに規定のレバー回転数分を回します。

株間	14cm	16cm	18cm	21cm	24cm
レバー回転数	49	42	37	32	28

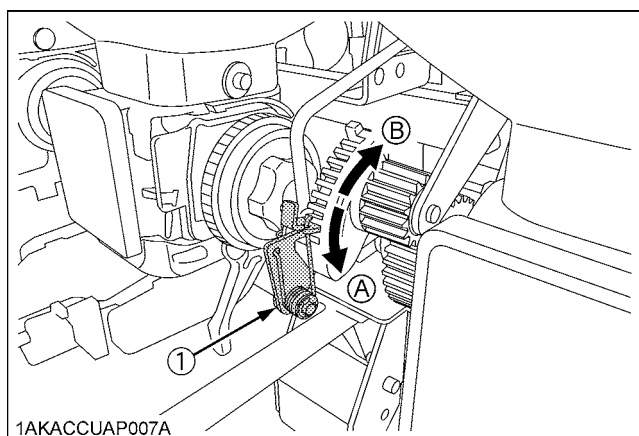
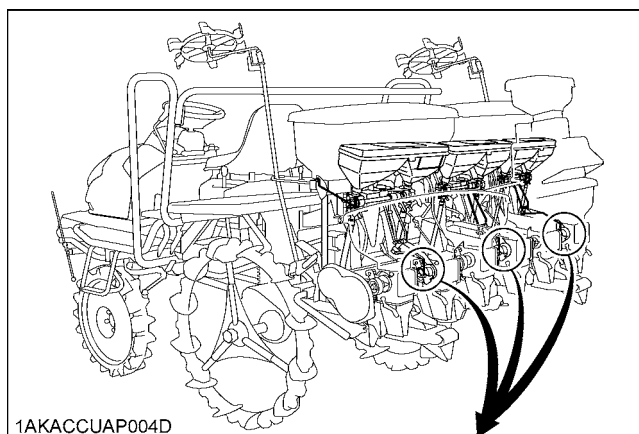
8. 繰出された容器内の薬剤を計測して6条分の合計の重量が23～27gの範囲内に入っているか確認します。重量が範囲から外れているときは【■施肥量再調整のしかた】の項を参照して重量を23～27gに調整します。
9. あぜぎわクラッチレバーを【入】位置にしたあと、全条同時調節レバーを収納します。

重 要

- * 施肥量の調整後は、あぜぎわクラッチレバーを【入】にし、全条同時調節レバーを必ず収納してください。破損する原因となります。

■施薬量再調整のしかた

1. 調量レバーを操作して調整を行ないます。
 - **【重量が 23g 以下の場合】** ……調量レバーを**【多い側】**に動かして調整します。
 - **【重量が 27g 以上の場合】** ……調量レバーを**【少ない側】**に動かして調整します。



①調量レバー

①多い側
 ②少ない側

補 足

- * 調量レバーを1目盛り動かすと、測定時からの繰出し量が約1割増減します。
2. 再度繰出し量の計測を行ないます。

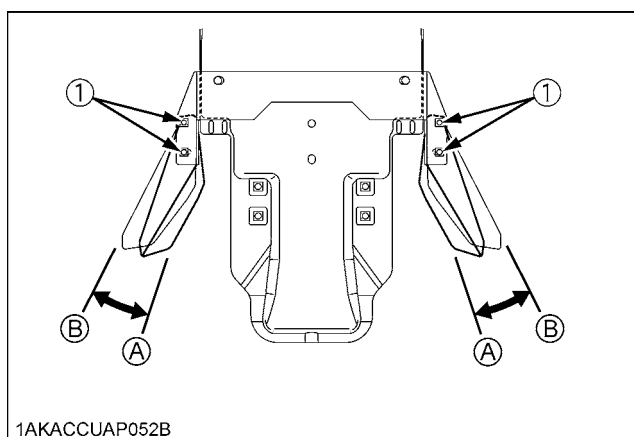
■ふく土板の調節

各フロート下面にあるふく土板をほ場状態に合わせて調節を行なってください。

1. エンジンを始動したあと、播種クラッチレバーを操作して直播部を**最上昇位置**にします。
2. 油圧ロックレバーを**【閉】**位置にし、直播部の下降防止をしたあと、エンジンを停止します。

◆ 角度調節

1. 標準又は軟らかい場合は、ふく土板を内側に
せまくした位置で作業します。また、ふく土
しない又は、ふく土の状態が悪い硬い場合は
ネジをゆるめてふく土板を外側に広げます。



①ネジ

④標準又は、軟らかいほ場
⑤硬いほ場

補 足

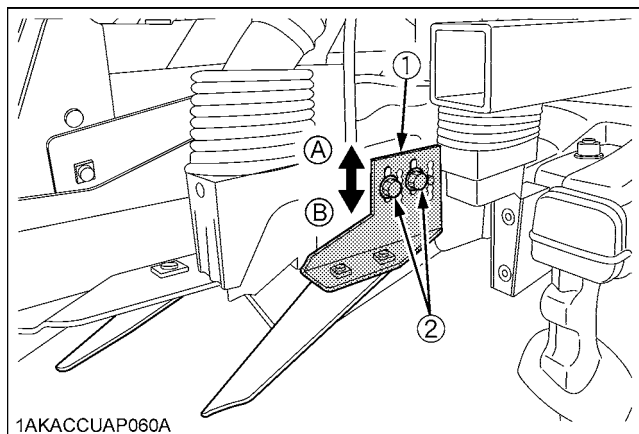
- * 出荷時のふく土板の位置は【**㊤標準又は、軟らかいほ場**】位置です。
 - * 調節は全箇所共同じ角度にしてください。
2. ネジを締付けます。

作業のしかた

◆ 高さ調節

ふく土板の角度調節を行なってもふく土の状態が改善されないときは、ふく土板取付ブラケットを動かしてふく土板の高さ調節を行なってください。

1. ふく土板の角度を内側に調節してもふく土が早いときは、ボルトをゆるめてふく土板取付ブラケットを上げます。また、ふく土板の角度を外側に調節してもふく土しない又は、ふく土の状態が悪いときは、ボルトをゆるめてふく土板取付ブラケットを下げます。



- ①ふく土板取付ブラケット A 上げる
②ボルト B 下げる

補 足

- * ふく土板取付ブラケットの調節は5段階行なえます。
 - * ふく土板取付ブラケットの基準位置は下記の通りです。(33 ページ参照)
 - センターフロート：上から3つ目の穴
 - サイドフロート：上から4つ目の穴
2. ボルトを締付けます。

メンテナンス

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように、各部の手入れをじゅうぶん行なってください。



警告

- * エンジンを必ず止めてください。
- * 取外したり、オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻き込み危険ですので必ず取付けてください。
- * 直播部を上げた状態で作業するときは、油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
- * 空運転をするときは、直播部を必ず上昇してから行なってください。

■掃除のしかた

一日の作業が終わったあとや長期格納前は、各部の泥やゴミの掃除を必ず行なってください。

重 要

- * 水洗いをするとき下記事項に注意してください。
 - 洗車時は、ホッパ内に水が入らないようにじゅうぶん注意してください。また、施薬部を洗浄するときは高圧洗浄機を使用しないでください。水の浸入や破損のおそれがあります。
- * 取外したボルト・ナットは、必ず締付けてください。

1. エンジンを停止します。
2. ホッパ内の薬剤を排出します。(8ページ参照)
3. 直播部を上昇させ、油圧ロックレバーを【閉】位置にし下降防止を行なったあと、エンジンを停止します。
4. ホッパ内、ロールケース内、作溝器部に水が入らないようにじゅうぶん注意して洗車してください。
5. 機体をじゅうぶんに乾燥させたあと、ホッパ内、ロールケース内のロール及び作溝器ホース内各部に水分が付着していないことを確認してください。水分が付着しているときは、水分を完全にふき取ります。

補 足

- * 作業終了後又は、長時間作業を行なわないときは、必ず薬剤を排出し、各部の掃除を行なってください。薬剤が固まり、各部の詰まりの原因となります。

メンテナンス

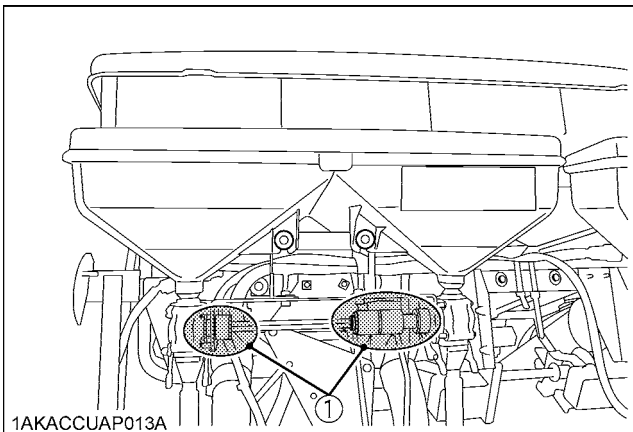
■注油のしかた

機械各部の掃除が終わったあとや長期格納前又は、施薬作業を始める前には、各部にグリースの塗布を行なってください。

補 足

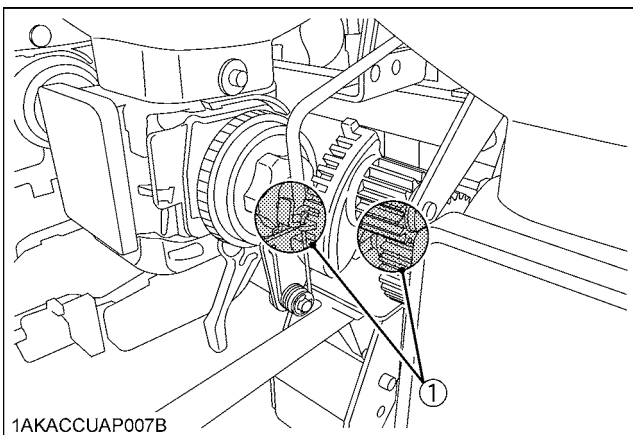
* グリース塗布をする前に、水が付着しているときは、水を良くふき取ってからグリースを塗布してください。

● ロールクラッチ部（グリース塗布）



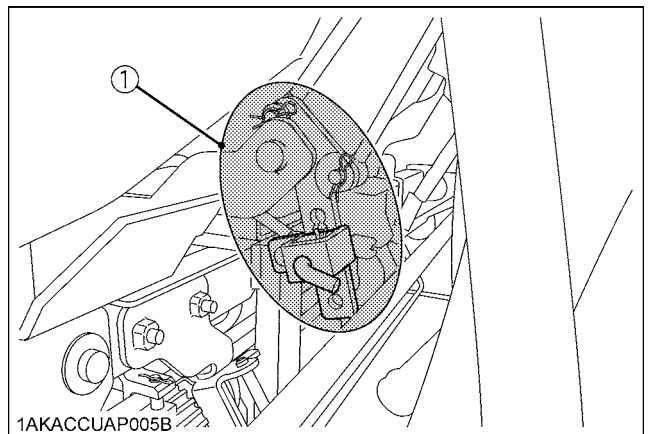
①グリース塗布

● ギヤ部（グリース塗布）



①グリース塗布

● 株間調節部（グリース塗布）



①グリース塗布

定期点検

定期点検は、播種作業を行なう人が定期的に行なう点検です。

施薬機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくとは故障や事故の原因となり、ひいては直播機の寿命を短くしてしまいます。

施薬機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。



- * 各部の点検・調整・交換作業を行なうときは、平坦な場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて、各レバー類を「切」位置にして、回転部を止めてから作業をしてください。
- * 取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻込まれるおそれがありますので、点検後はカバー類を必ず取付けてから作業をしてください。
- * 余分なグリースは、きれいにふき取ってください。

補 足

- * 定期点検については、本機、直播機の【取扱説明書】を参照してください。
- * 点検・交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目安として早めの点検をお願いします。

■廃棄物の処理について



廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- * 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- * 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- * 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

メンテナンス

■定期点検一覧表

本機、直播機の【取扱説明書】を参照してください。

○：点検と調整 △：交換

点検箇所・項目	点検・ 処置	点検・交換時期							参照 ページ
		作業 前後	シー ズン 前後	50 時間	100 時間	200 時間	1 年 ごと	2 年 ごと	
直播部									
ブラシ，繰出しロール	点検・交換		○						17
		△：摩耗がひどいとき又は，施薬量が不安定になったとき							

* 参照ページに☆印のある整備項目の交換については、購入先に連絡又は、整備工場で行なってください。

補 足

* 上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって、消耗部品の調整や交換時期は異なります。

■給・注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量 (L)	種 類	参 照 ページ
			点 検	交 換			
グリース	ロールクラッチ部	補給	作業シーズン 前、後	—	適 量	クボタ 純グリース	14
	ギヤ部						
	株間調節部						

* 参照ページに☆印のある整備（分解作業）については、購入先に連絡してください。

重 要

各部への補給

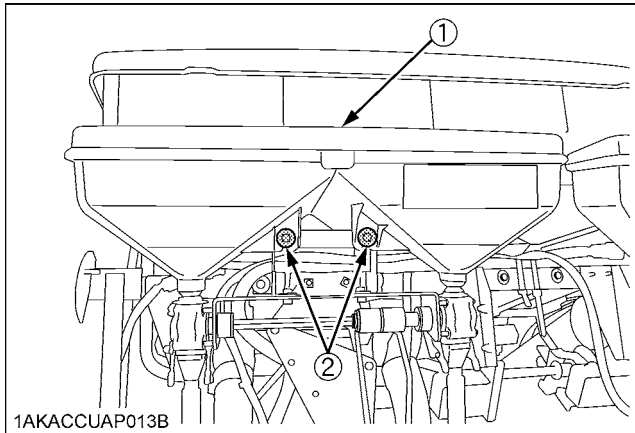
- * 使用するグリースは、指定の純グリースを使用してください。
- * 補給の際は、ごみや水が混入しないようにしてください。

補 足

* 上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって、消耗部品の調整や交換時期は異なります。

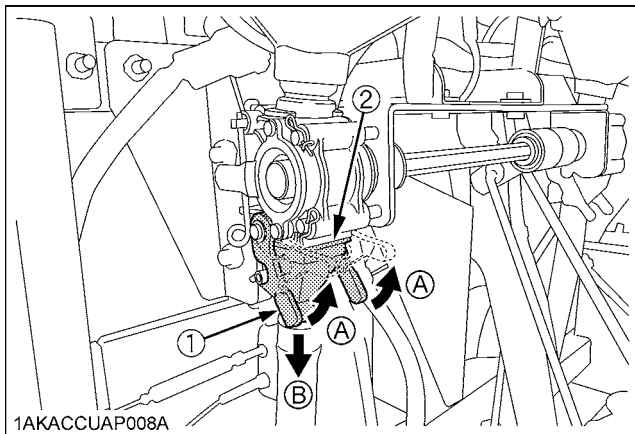
■繰出しロール・ブラシの点検・交換

1. ホッパ内、繰出しロール内の薬剤はすべて排出します。(8 ページ参照)
2. ボルト (M6) 2 本を外し、ホッパを取外します。



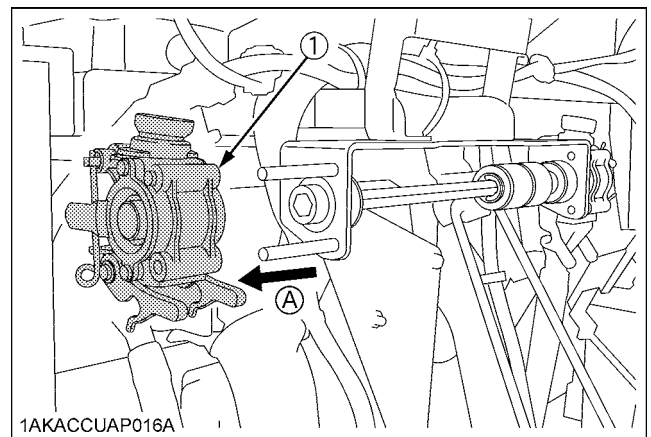
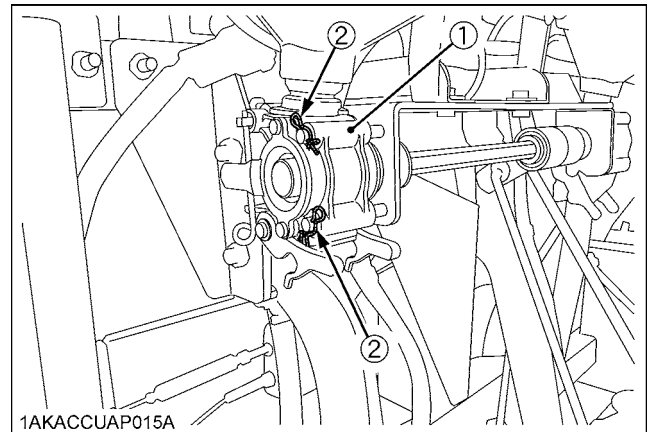
- ①ホッパ
②ボルト (M6)

3. ロートロックレバーを上げて解除し、ロートを下側に引いて取外します。



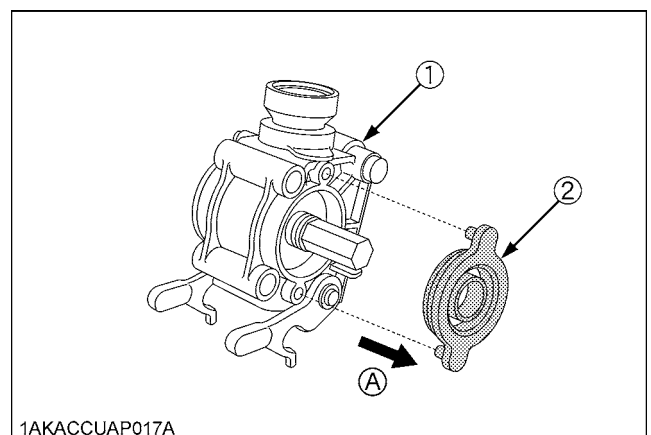
- ①ロートロックレバー A 解除
②ロート B 取外す

4. スナップピン 2 本を外し、ロールケースを取外します。



- ①ロールケース A 取外す
②スナップピン

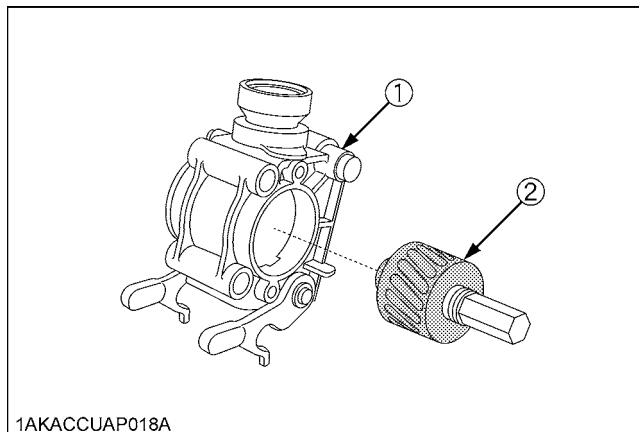
5. ロールケースに取付けているカバーを取外します。



- ①ロールケース A 取外す
②カバー

メンテナンス

6. ロールケースから繰出しロールを取外したあと、繰出しロールの溝を掃除します。

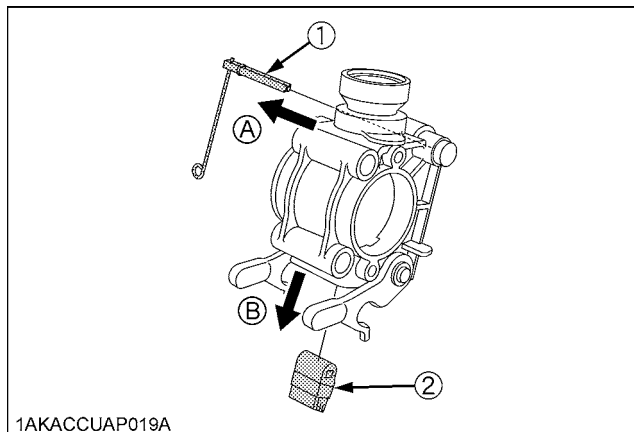


- ①ロールケース
②繰出しロール

補 足

- * 繰出しロールを点検し、変形、破損、磨耗しているときは新しい繰出しロールに交換してください。

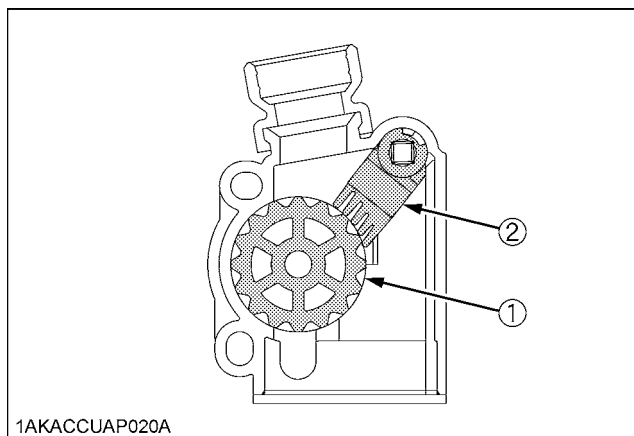
7. ブラシを固定しているブラシロックレバーを抜いてブラシを取外します。



- ①ブラシロックレバー
②ブラシ
A 抜く
B 取外す

重 要

- * ブラシを点検し、変形、破損、磨耗しているときは新しいブラシに交換してください。また、組付けるときは、繰出しロールとブラシの取付け方向に注意してください。取付け方向を間違えますと正常に施薬できません。



- ①繰出しロール
②ブラシ

施薬作業後の手入れ

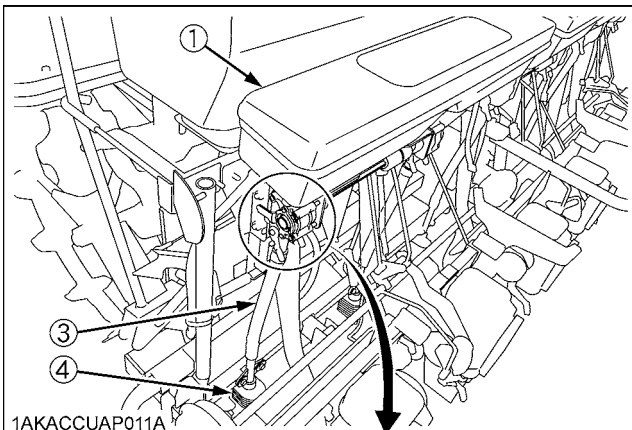
施薬作業が終わったあとは、機械の点検・整備を怠らず翌日又は、翌年の施薬作業に備えてください。

■毎日の作業後

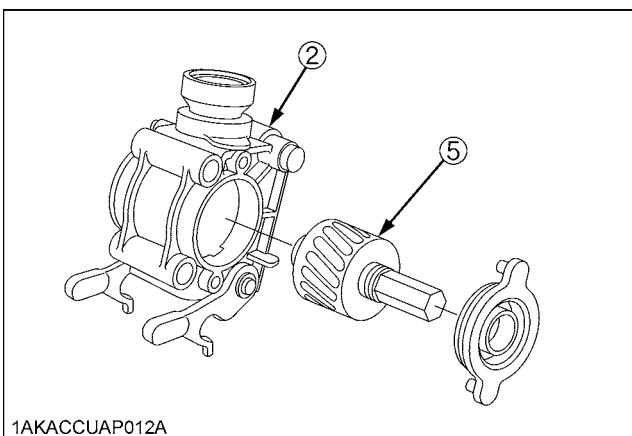


*** 掃除する場合は、必ずエンジンを停止させてから行なってください。**

1. 平たんな場所に直播機を停めます。
2. 各部の掃除を行ないます。
 - (1) ホッパ内、ロールケース内の繰出しロール及びホースにたまっている薬剤を完全に取り除いてください。また、湿っているときは、乾いた布などでふき取ってください。



1AKACCUAP011A



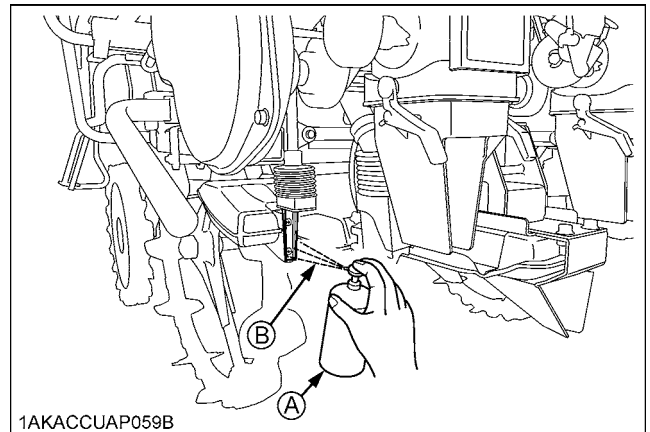
1AKACCUAP012A

- ①ホッパ
- ②ロールケース
- ③チューブ
- ④作溝器
- ⑤繰出しロール

- (2) 作溝器部の泥や水はよく取除いてください。

補 足

- * 洗剤の空容器などを利用して水を入れ、薬剤を洗い流してください。(ホース内はぬらさないこと)



1AKACCUAP059B

- ① 洗剤などの空容器
- ② 洗い流す

補 足

- * 作業終了後又は、長時間作業を行なわないときは、必ず薬剤を排出し、各部の掃除を行なってください。薬剤が固まり、各部の詰まりの原因となります。
- * 掃除後は各部の水分を完全にふき取り、じゅうぶんに乾燥させてください。

メンテナンス

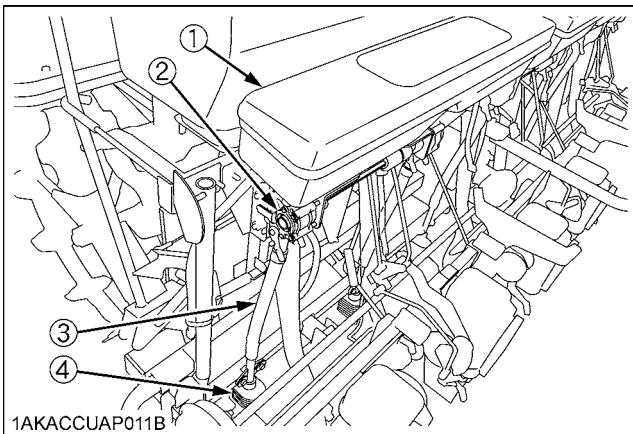
■長期収納時

シーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

直播機を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

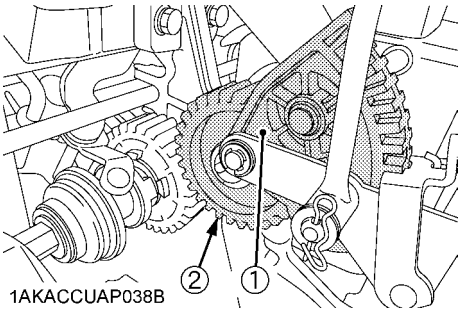
- 施肥機を空運転しながら、ホッパ、ロールケース、チューブ、作溝器などを水道水でよく水洗いしたあと、じゅうぶんに乾燥してから保管してください。
ホッパ内やロールケース内に水が入らないようにじゅうぶん注意してください。



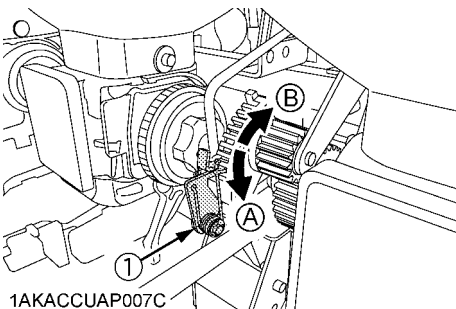
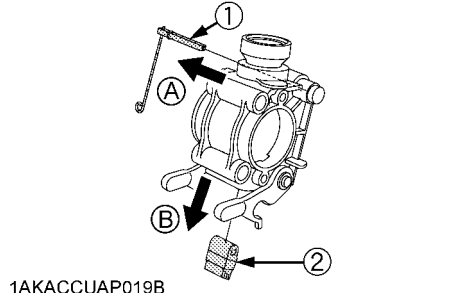
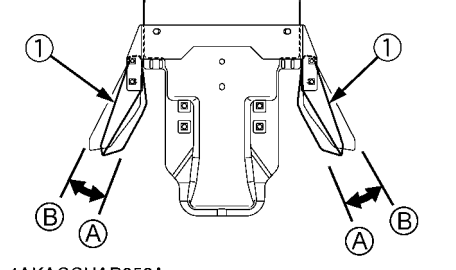
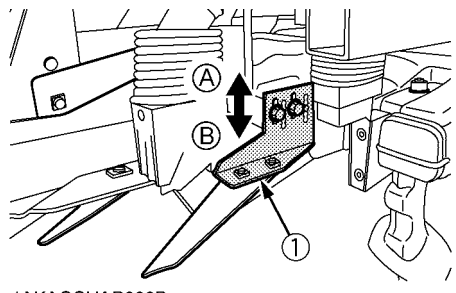
- ①ホッパ
- ②ロールケース
- ③チューブ
- ④作溝器

- 風通しの良い屋内に保管してください。
- 各部のゆるみを調べ、増締めを行なってください。

施薬機の不調と処置

このような状態で (原因)	このようになる	どうする (処置方法)	
施薬用ホッパでの薬剤の詰まり ロールケースでの薬剤の詰まり チューブ先端での薬剤の詰まり 作溝器での薬剤の詰まり	● 薬剤が出ない。	機械の処置 【ホッパ】 ● 分解、清掃を行なう。 ● 濡れた状態で使用しない。 ● ホッパの位置が適切か確認する。 【ロールケース】 ● 分解、清掃を行なう。 ● 濡れた状態で使用しない。 【チューブ先端】 ● 分解、清掃を行なう。 ● 濡れた状態で使用しない。 ● フレーム位置を調節する。 【作溝器】 ● 付着物を落とす。 ● ふく土板の角度をふく土しない側に調整する。 ● 施薬駆動ギヤが直播部ロールギヤに噛み合っているか確認する。 ● 播種始めは低速で行なう。 ● 停止するときは、必ず減速する。 ● 一定の速度で播種を行なう。	 1AKACCUAP038B ① 施薬駆動ギヤ ② 直播部ロールギヤ
		薬剤の処置 開封していない薬剤を使用する。	

施薬機の不調と処置

このような状態で (原因)	このようになる	どうする (処置方法)
機械の設定	● 施薬量が少ない。 ● 施薬量が多い。	機械の処置 ● 株間調節金具の株間位置が本機の株間設定値と同じであれば、多い側にラック位置を変更する。 ● 繰出しロールを確認し、ロール溝に薬剤が付着しているときは分解、掃除を行なって薬剤を取除く。 ● 株間調節金具の株間位置が本機の株間設定値と同じであれば、少ない側にラック位置を変更する。 ● ブラシ、繰出しロールを確認し、摩耗していれば交換する。  1AKACCUAP007C ①調量レバー A多い側 B少ない側  1AKACCUAP019B ①ブラシロックレバー A抜く B取外す ②ブラシ
ほ場が硬い	● ふく土してない。	機械の処置 ● フィットセンサの感度調節を【硬】側に調節する。 ● ふく土板の角度を調整する。 ● ふく土板の高さを下げる。 ほ場の処置 ● 再度代かきして適切なほ場の状態にする。 ● 水を入れる。  1AKACCUAP052A ①ふく土板 A標準又は軟らかいほ場 B硬いほ場
ほ場が軟らかい	● 薬剤がほ場表面に出ている。	機械の処置 ● フィットセンサの感度調節を【軟】側に調節する。 ● 速度を上げる。 ● ふく土板の角度を調整する。 ● ふく土板ブラケットを調節して高さを上げる。 ほ場の処置 水を落として表面を硬くする又は表面が硬くなるまで待つ。 (直播を延期する。)  1AKACCUAP060B ①ふく土板取付ブラケット A上げる B下げる

付表

主要諸元

型 式 名	SY6-TC
条 数(条)	6
本 体 重 量(kg)	13
本 体 寸 法(mm)	785 × 1780 × 475
施 薬 方 式	種もみ直下に埋設
薬 剤 の 種 類	殺虫殺菌剤
繰 出 し 方 式	溝付きロール式
ホ ッ パ 容 量(kg)	11
各 条 停 止	直播機と連動
駆 動	メカ式

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

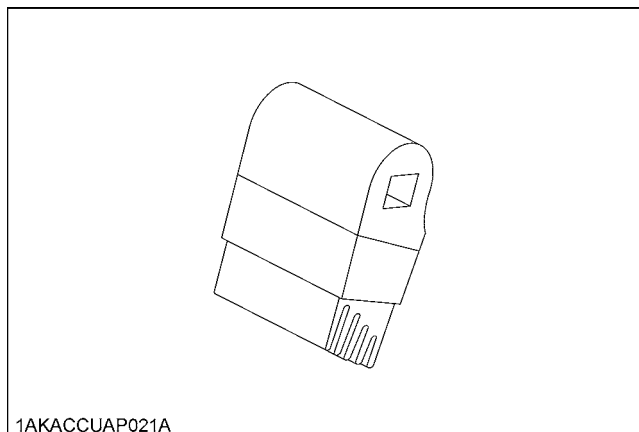
付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

- * 取扱説明書 1
- * 取扱いのポイントシート 1

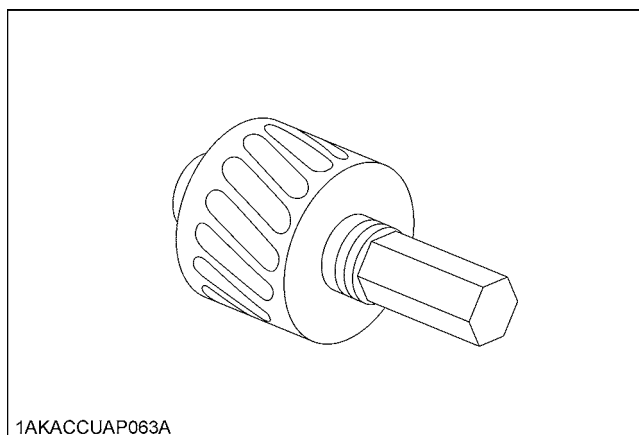
消耗部品(純正部品を使いましょう)

◆ ブラシ



品 名	品 番
ブラシ	4F651-9125- △

◆ 繰出しロール



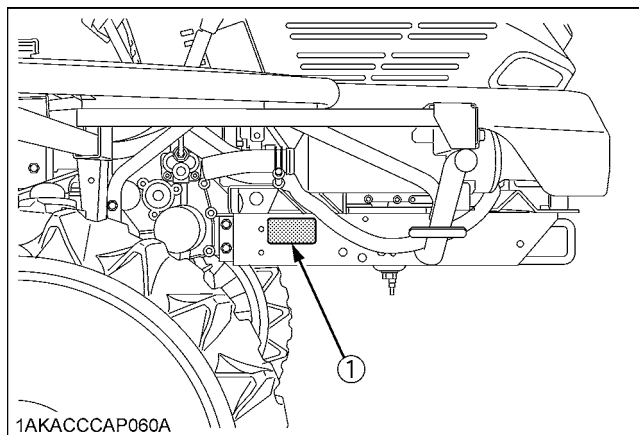
品 名	品 番
繰出しロール	4F651-9136- △

組付け作業のしかた

※本製品の直播同時殺虫殺菌剤施薬機 SY6-TC を直播機 WP60D-TC に取付けるとき、別途対応キットが必要になりますので下記対象機番の WP60D-TC を購入された方は下記内容を確認後、購入先に連絡してください。

● **【対象機番】**：# 50001 ～ # 50292

* **【対象機番】** については、**型式ラベルの製造番号**を確認してください。



①型式名・区分・製造番号

【型式ラベル】

農業機械の種類	その他（水稻直播機）
型 式 名	クボタ
販 売 型 式 名	
区 分	
製 造 番 号	
製 造 会 社	株式会社クボタ

1AKABAKAP036D

● **対応キット**

品番：PR192-9910-△ **品名**：フロート、キット（セヤクキ）

■部品の取扱いについて

組付けるときの各部品の取扱い要領は下記の通りです。

組付け部品……殺虫殺菌施薬機の組付け部品です。よく確認してから組付け作業を行なってください。

再使用部品……一度外した部品を同じところに再度組付ける部品です。

保管部品………取外したあと使用しない部品です。

■締付けトルクについて

ボルト，ナットの締付けトルクは下表を参照してください。

呼び径	締付けトルク（N・m）	部品の材料
M5	2.5 ～ 5.4	鉄
M6	9.8 ～ 11.3	鉄
	2.9 ～ 3.9	樹脂
M8	23.5 ～ 27.5	鉄
	9.8 ～ 11.8	樹脂

組付け作業のしかた

組付け手順



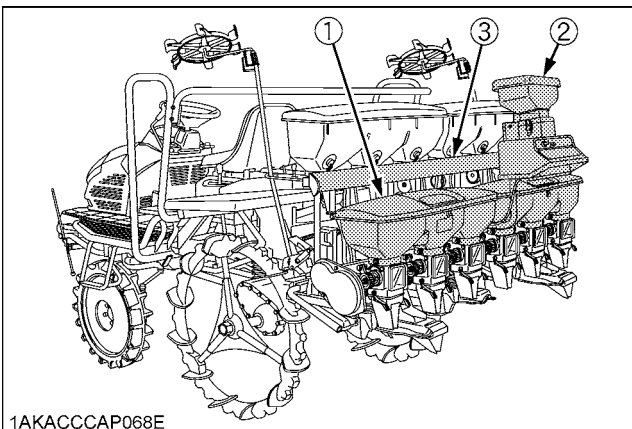
- * エンジンを必ず止めてから組付け作業を行ってください。
- * ブレーキをかけて、油圧ロックレバーを【閉】にしてください。
- * 機械の改造は危険ですので、改造しないでください。
- * 共同作業を行なうときは、合図を徹底させて行なってください。



- * 本機取扱説明書（別冊）の【安全に作業するために】（イエローページ）の項をよく読んで安全作業を行ってください。
- * 組付作業は平坦で凹凸のない場所で行ってください。
- * 周囲の安全を確認して作業してください。

■組付け前の準備

1. 平たんな場所に機体を停止したあと、エンジンを停止します。
2. 種もみ用ホッパ、こまきちゃん、樹脂カバーをそれぞれ取外します。

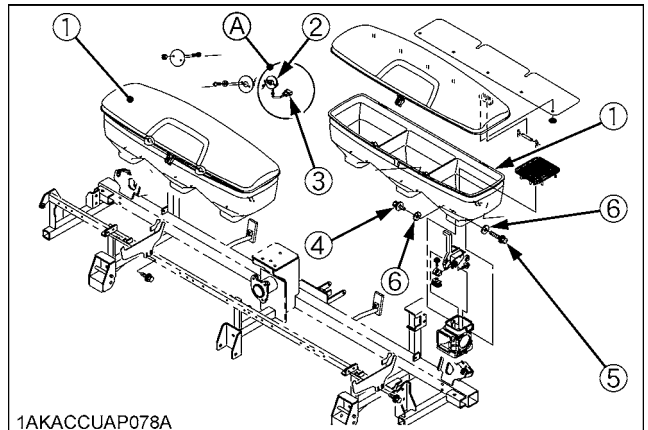


- ①種もみホッパ
- ②こまきちゃん
- ③樹脂カバー

補 足

- * 取外した種もみ用ホッパ、こまきちゃん、樹脂カバーは失くさないように大切に保管してください。

- (1) 種もみホッパの種もみ切れセンサのカブラを取外したあと、ボルト（M6 × 20）6 本、ボルト（M6 × 50）6 本及び樹脂座金（M6）各 6 本個を取外して種もみホッパを取外します。



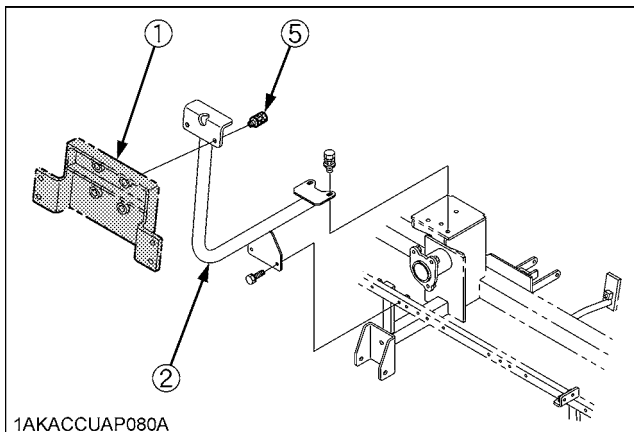
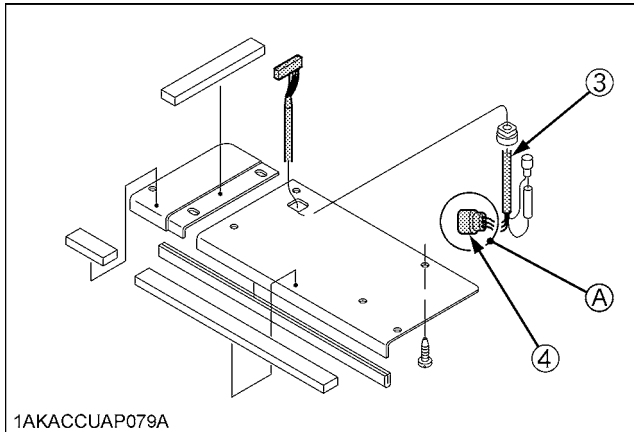
- ①種もみホッパ
- ②種もみ切れセンサ
- ③カブラ（4箇所）
- ④ボルト（M6 × 20）6 本
- ⑤ボルト（M6 × 50）6 本
- ⑥樹脂座金（M6）各 6 個
- Ⓐ種もみ切れセンサのカブラを外す

再使用部品

- * 種もみホッパ 2 個
- * ボルト（M6 × 20） 6 本
- * ボルト（M6 × 50） 6 本
- * 樹脂座金（M6） 各 6 個

組付け作業のしかた

- (2) こまきちゃんのワイヤハーネス(メイン)のカプラを取外したあと、ボルト (M8 × 20) 2 本を取外してこまきちゃん取付けフレームからこまきちゃんを取外します。

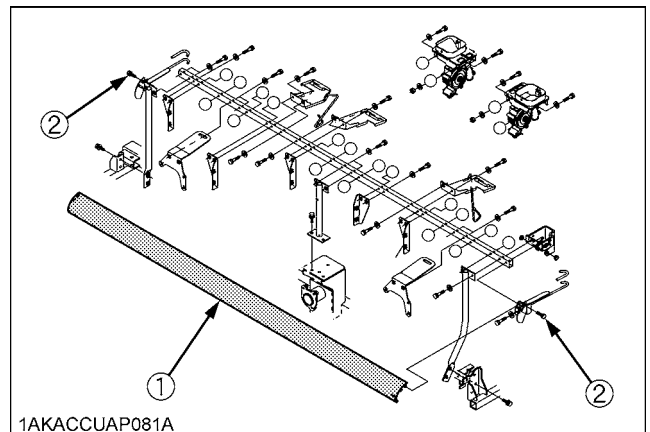


- ①こまきちゃん (こまきちゃん取付けステー) ②こまきちゃん取付けフレーム ③ワイヤハーネス (メイン) ④カプラ ⑤ボルト (M8 × 20) 2 本
- Ⓐワイヤーハーネス (メイン) のカプラを外す

再使用部品

- * こまきちゃん 1 個
* ボルト (M8 × 20) 2 本

- (3) ボルト (M6 × 25) 2 個を取外して樹脂カバーを取外します。



- ①樹脂カバー
②ボルト (M6 × 25)

再使用部品

- * ボルト (M6 × 25) 2 本

保管部品

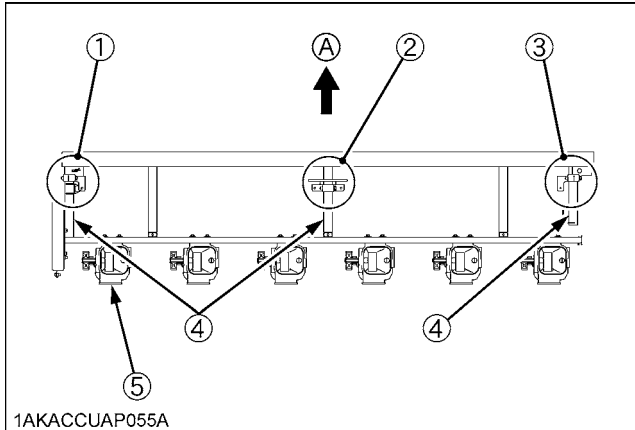
- * 樹脂カバー 1 個

補 足

- * 取外した樹脂カバーを取付けていたボルトは、組付手順【■ホッパ・ガイドの組付け】の**手順3.**のところでガイドを取付けるときに使用する再使用部品です。

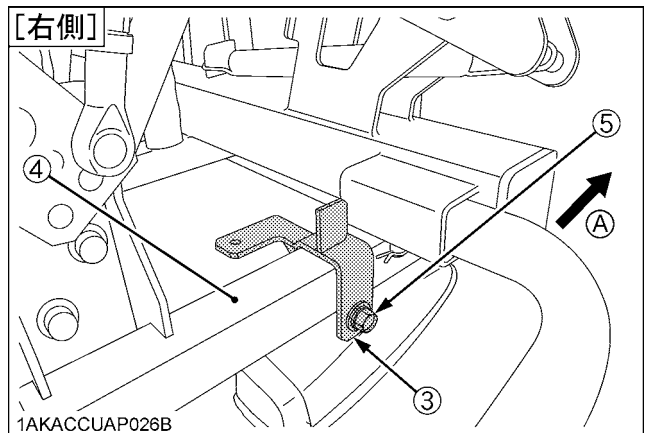
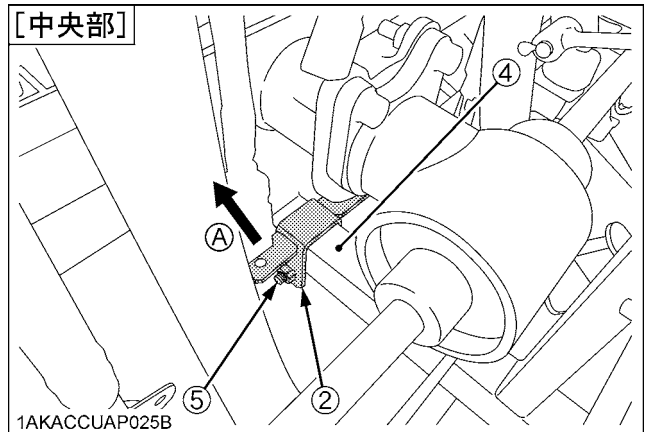
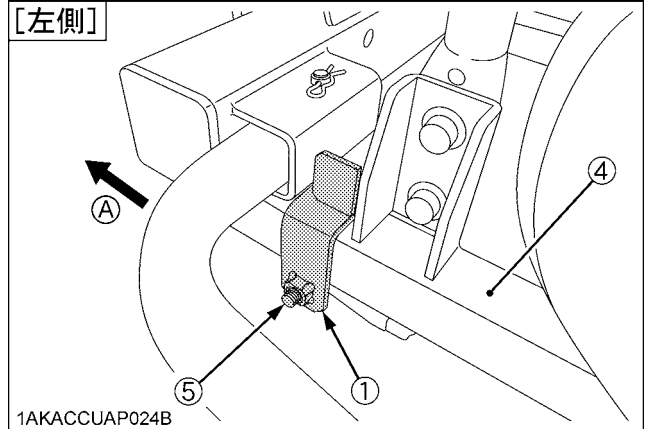
■施薬機取付け用ステーの取付け

1. 直播機側のフレームにブラケット (LH), ブラケット (C), ブラケット (RH) を取付けます。取付けるときは, 直播機の後方から見て, フレームの左側にブラケット (LH), 中央部にブラケット (C), 右側にブラケット (RH) をボルト (M8 × 50) とカラーでそれぞれ取付けます。



- ① [左側]
- ② [中央部]
- ③ [右側]
- ④ 直播部フレーム
- ⑤ 種もみ用ロールケース

A 前方



- ① ブラケット (LH)
- ② ブラケット (C)
- ③ ブラケット (RH)
- ④ フレーム
- ⑤ ボルト (M8 × 50)

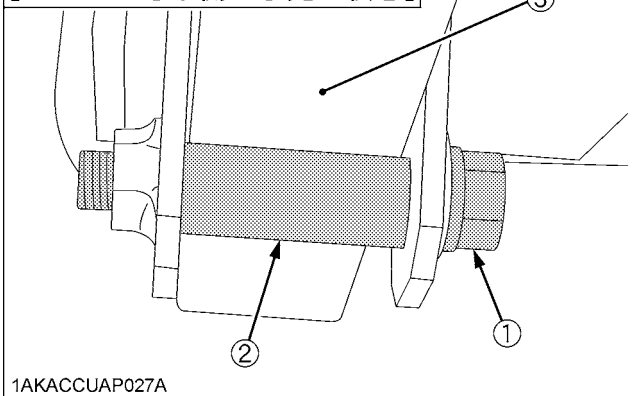
A 前方

組付け部品

- | | |
|-----------------|-----|
| * ブラケット (LH) | 1 個 |
| * ブラケット (RH) | 1 個 |
| * ブラケット (C) | 1 個 |
| * ボルト (M8 × 50) | 3 本 |

組付け作業のしかた

[フレームを下側から見た状態]



1AKACCUAP027A

- ①ボルト (M8 × 50)
- ②カラー
- ③フレーム

組付け部品

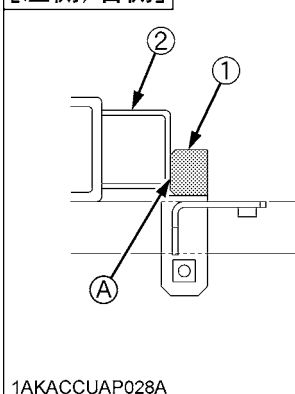
* カラー

3 個

補 足

* ブラケットを取付けるときは、ブラケットの位置決めプレートを本機フレームに押し当ててすき間がない状態で組付けてください。

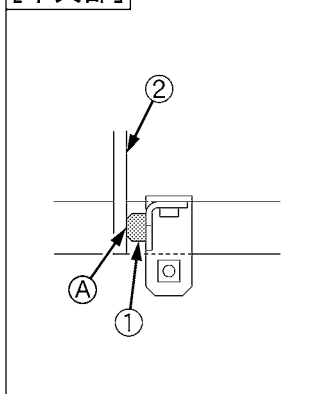
[左側, 右側]



1AKACCUAP028A

- ①位置決めプレート
- ②本機フレーム

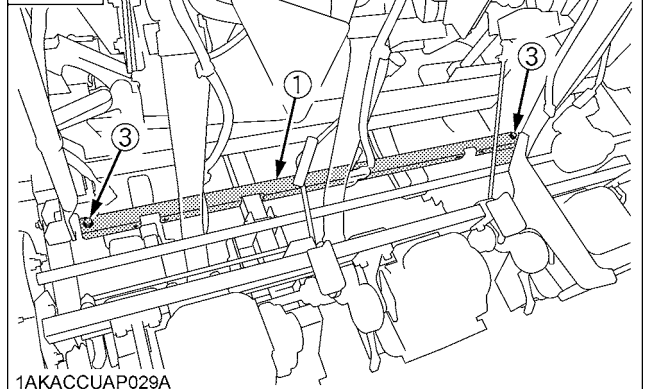
[中央部]



Ⓐ すき間がない状態で組付ける

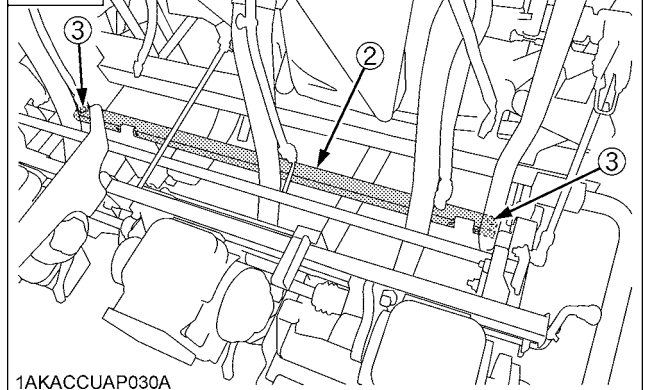
2. **手順 1.** で取付けた 3 箇所のブラケットにステー (LH), ステー (RH) を取付けます。取付けるときは、直播機の後方から見て、左側にステー (LH), 右側にステー (RH) をボルト (M6 × 16) 各 2 本でそれぞれ取付けます。

[左側]



1AKACCUAP029A

[右側]



1AKACCUAP030A

- ①ステー (LH)
- ②ステー (RH)
- ③ボルト (M6 × 16)

組付け部品

* ステー (LH)

1 個

* ステー (RH)

1 個

* ボルト (M6 × 16)

4 本

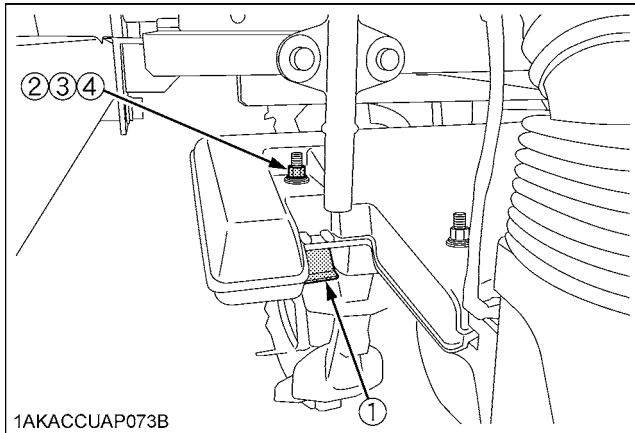
補 足

* ステー (LH) とステー (RH) は長さが異なるため、左右を間違えると取付けられません。

組付け作業のしかた

■各フロートの部品組付け

1. ナット (M8) を取外して各フロートに取付けている整地プレートをそれぞれ取外します。



※イラストの整地プレートはサイドフロート (左) の左側

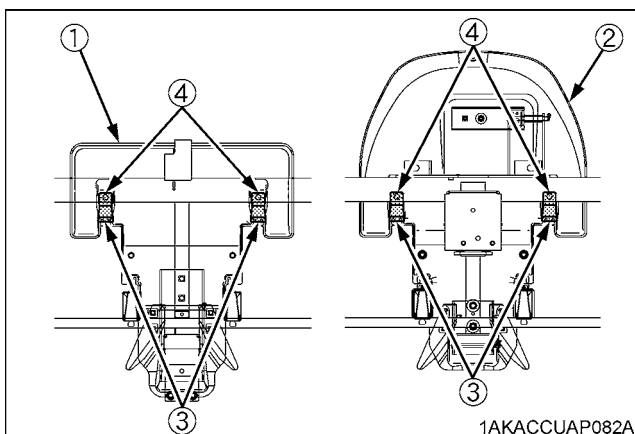
- ①整地プレート
- ②ナット (M8)
- ③平座金 (M8)
- ④バネ座金 (M8)

保管部品

- * 整地プレート 6 個
- * ナット (M8) 6 個
- * 平座金 (M8) 6 個
- * バネ座金 (M8) 6 個

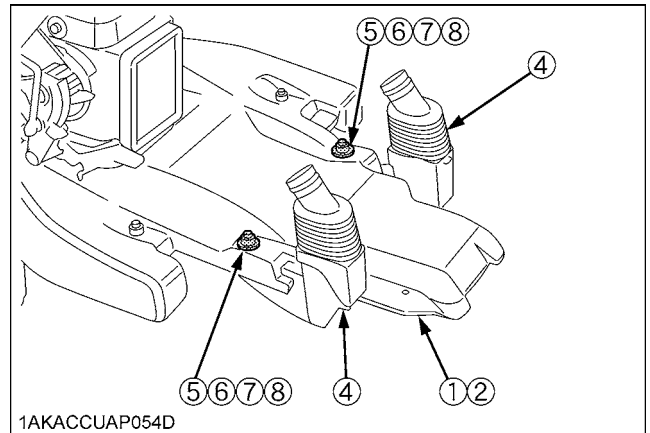
補 足

- * 整地プレートは各フロートにそれぞれ 2 個ずつ取付けていますので、全ての整地プレートを取外してください。

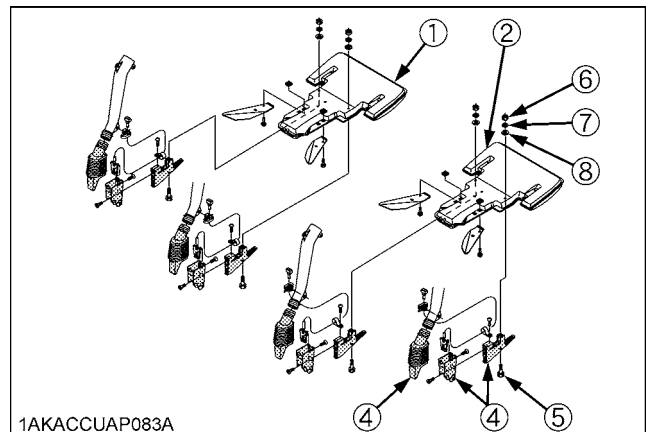


- ①サイドフロート (左, 右)
- ②センターフロート
- ③整地プレート
- ④ナット (M8)

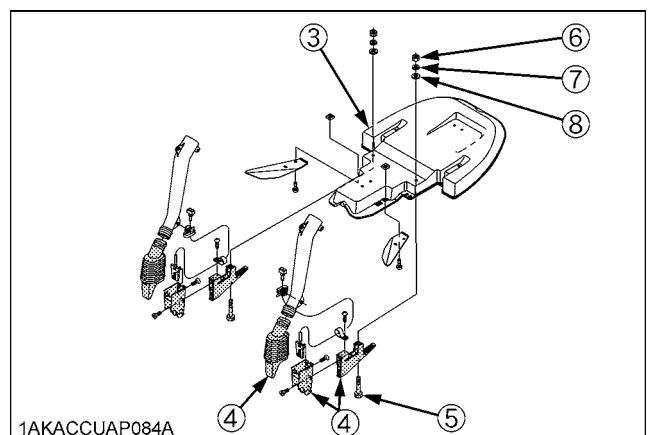
2. 各フロートに取付けている施肥用の作溝器を取付けているナット (M8), バネ座金 (M8), 平座金 (M8) をボルト (M8 × 65) からそれぞれ取外します。



※イラストはセンターフロートで施肥ホースを取外している状態



1AKACCUAP083A



1AKACCUAP084A

- ①サイドフロート (左)
- ②サイドフロート (右)
- ③センターフロート
- ④施肥用作溝器
- ⑤ボルト (M8 × 65)
- ⑥ナット (M8)
- ⑦バネ座金 (M8)
- ⑧平座金 (M8)

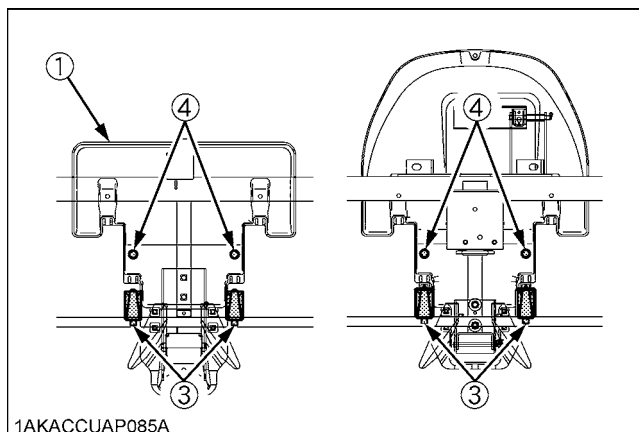
再使用部品

- * ボルト (M8 × 65) 6 個
- * ナット (M8) 6 個
- * 平座金 (M8) 6 個
- * バネ座金 (M8) 6 個

組付け作業のしかた

補 足

- * 施肥用作溝器は各フロートにそれぞれ 2 個ずつ取付けています。
- * ボルト (M8 × 65) からナット (M8)、バネ座金 (M8)、平座金 (M8) を取外したところに組付け部品のふく土板取付けブラケットアッシを取付けますが、再使用部品のボルト (M8 × 65) が地面に落下していないか確認し、落下しているときは、一時保管しておいてください。

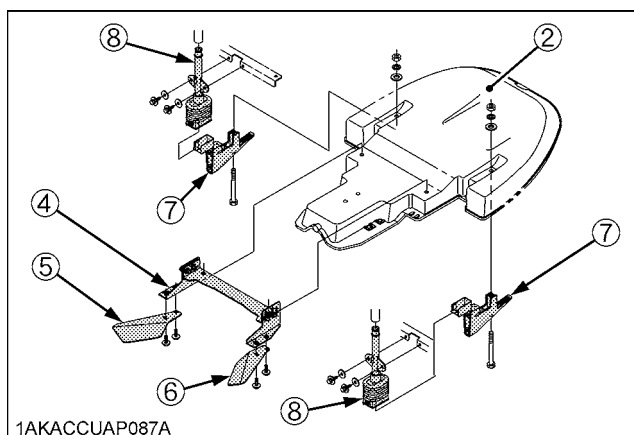
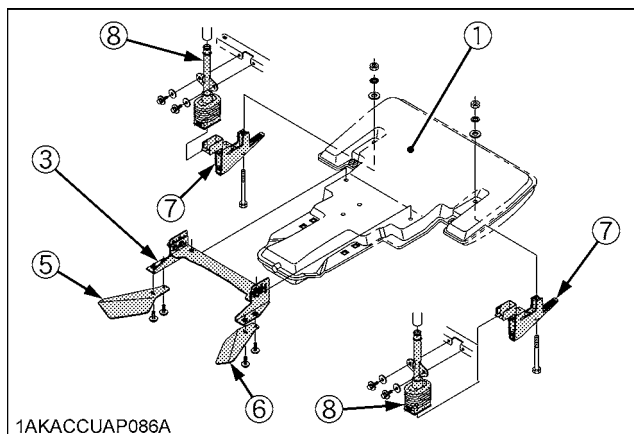


- 1AKACCUAP085A
- ①サイドフロート (左, 右)
 - ②センターフロート
 - ③施肥用作溝器
 - ④ボルト (M8 × 65), ナット (M8), バネ座金 (M8), 平座金 (M8)

3. 各フロートにふく土板取付けブラケットアッシ, ふく土板, 施肥用作溝器, ジャバラアッシをそれぞれ取付けます。

補 足

- * ふく土板取付けブラケットアッシ, ふく土板, 施肥用作溝器, ジャバラアッシは下図を参照してください。

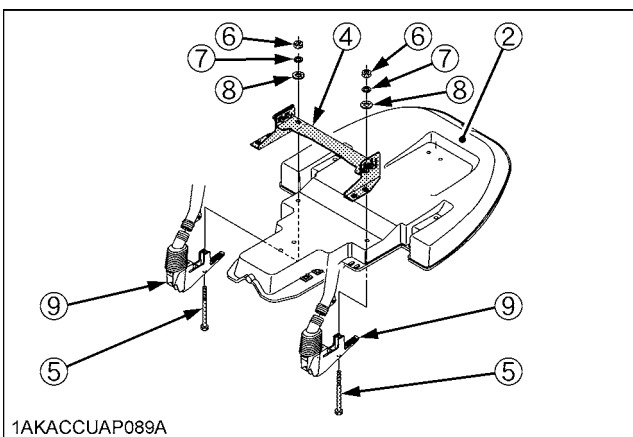
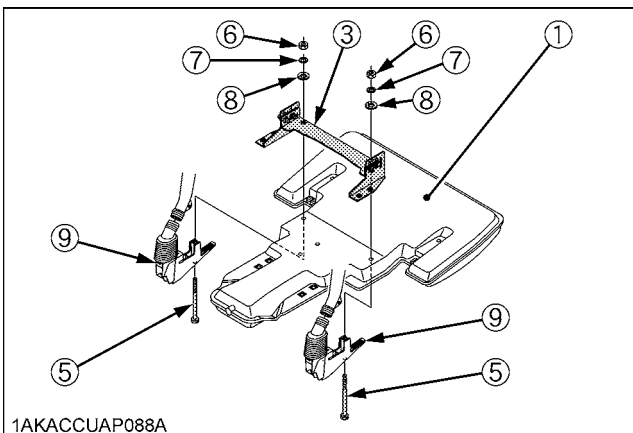
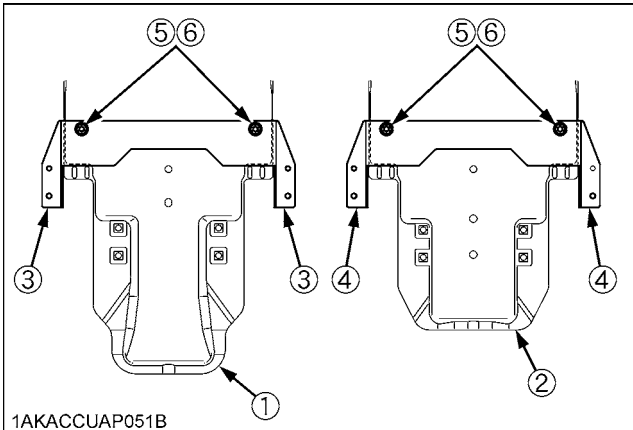


※イラストは施肥用の作溝器を取外している状態

- ①サイドフロート (左, 右)
- ②センターフロート
- ③ふく土板取付けブラケットアッシ (サイドフロート用)
- ④ふく土板取付けブラケットアッシ (センターフロート用)
- ⑤ふく土板 (LH)
- ⑥ふく土板 (RH)
- ⑦施肥用作溝器
- ⑧ジャバラアッシ

組付け作業のしかた

- (1) ふく土板取付けブラケットアッシを各フロート上部に取付けます。**手順 2.** で取外した各フロートに取付けている施肥用溝器取付け用のボルト (M8 × 65), ナット (M8), バネ座金 (M8) 各再使用部品で下図のようにふく土板取付けブラケットアッシを取付けます。



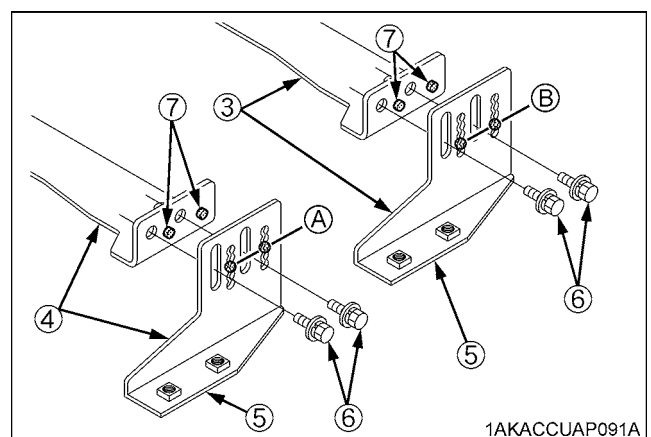
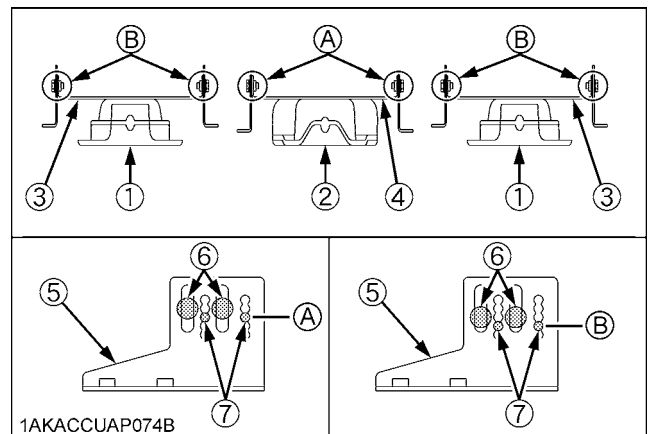
- ①サイドフロート (左, 右)
- ②センターフロート
- ③ふく土板取付けブラケットアッシ (サイドフロート用)
- ④ふく土板取付けブラケットアッシ (センターフロート用)
- ⑤ボルト (M8 × 65)
- ⑥ナット (M8)
- ⑦バネ座金 (M8)
- ⑧平座金 (M8)
- ⑨施肥用溝器

組付け部品

- * ふく土板取付けブラケットアッシ (サイドフロート用) 2 個
- * ふく土板取付けブラケットアッシ (センターフロート用) 1 個

補 足

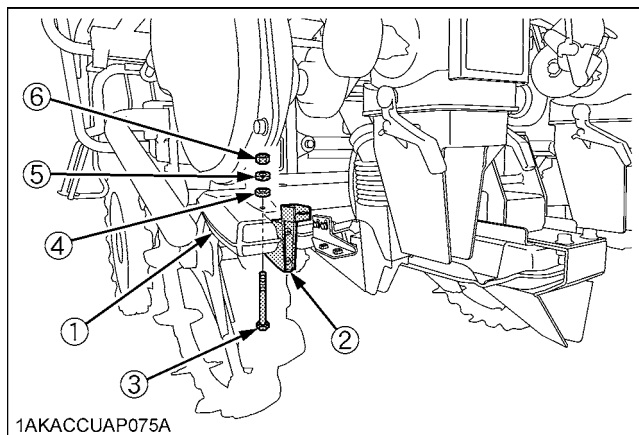
- * ふく土板取付けブラケットアッシは左, 右のサイドフロート用とセンターフロート用がありますので注意してください。
- * ふく土板取付けブラケットアッシに取付けているブラケット左, 右 (LH, RH) の調節穴 (5箇所) にブラケットのピン部を差込んでいる位置 (ピン部取付位置) が左, 右のサイドフロート用は, **上から 4 段目の穴位置**, センターフロート用は**上から 3 段目の穴位置**です。また, 上記穴位置がふく土板取付ブラケットアッシをフロートに取付けたときの基準位置です。



- ①サイドフロート (左, 右)
- ②センターフロート
- ③ふく土板取付けブラケットアッシ (サイドフロート用)
- ④ふく土板取付けブラケットアッシ (センターフロート用)
- ⑤ブラケット (LH, RH)
- ⑥ボルト
- ⑦ピン部
- Ⓐ センターフロート用基準位置 (上から 3 段目の穴)
- Ⓑ サイドフロート用基準位置 (上から 4 段目の穴)

組付け作業のしかた

- (2) 各フロートに施薬用作溝器をボルト (M8 × 60), 平座金 (M8), バネ座金 (M8), ナット (M8) でそれぞれ取付けます。



※イラストはサイドフロート (左) の左側

- ①フロート
- ②作溝器
- ③ボルト (M8 × 60)
- ④平座金 (M8)
- ⑤バネ座金 (M8)
- ⑥ナット (M8)

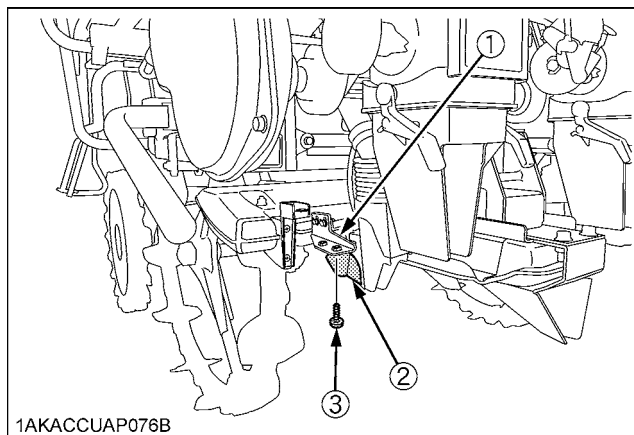
組付け部品

- | | |
|-----------------|-----|
| * 作溝器 | 6 個 |
| * ボルト (M8 × 60) | 6 個 |
| * 平座金 (M8) | 6 個 |
| * バネ座金 (M8) | 6 個 |
| * ナット (M8) | 6 個 |

補 足

- * 施薬用作溝器は各フロートにそれぞれ 2 個ずつ取付けてください。

- (3) 各ふく土板取付けブラケットアッシにふく土板 (LH), ふく土板 (RH) をトラスコネジ (M5) 各 2 本でそれぞれ取付けます。



※イラストはサイドフロート (左) の左側

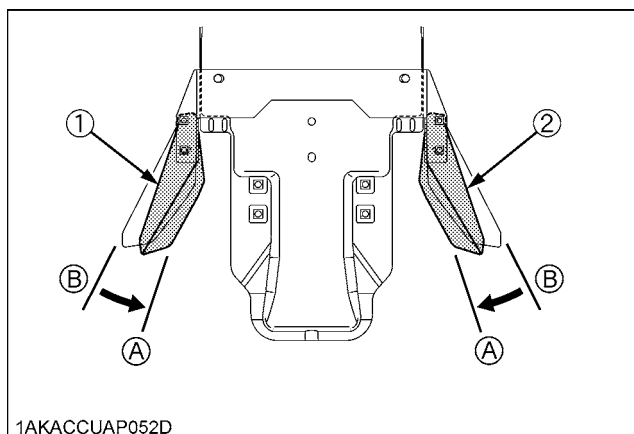
- ①ふく土板取付けブラケットアッシ
- ②ふく土板
- ③トラスコネジ (M5)

組付け部品

- | | |
|-------------|------|
| * ふく土板 (LH) | 3 個 |
| * ふく土板 (RH) | 3 個 |
| * トラスコネジ | 12 個 |

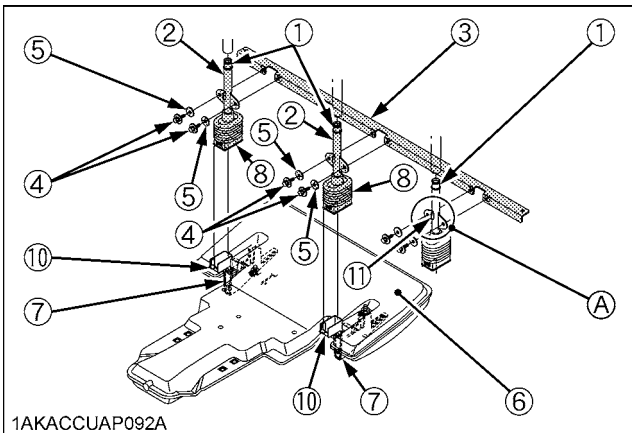
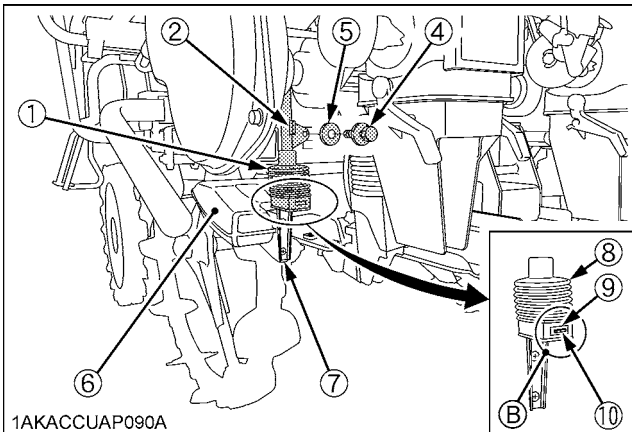
補 足

- * ふく土板 (LH), ふく土板 (RH) は各フロートにそれぞれ 1 個ずつ取付けてください。
- * ふく土板の標準位置は、内側にいちばん寄せた状態の位置 (下図 **A 位置**) です。



- | | |
|------------|-------|
| ①ふく土板 (LH) | ①標準位置 |
| ②ふく土板 (RH) | ②寄せる |

- (4) ジャバラアッシを施薬用作溝器と【■施薬機取付け用ステーの取付け】の手順 2. で取付けたステー (LH), (RH) にそれぞれ取付けます。ジャバラアッシを取付けるときは、ジャバラアッシのリブを後側向きにした状態でチューブをステー (LH), (RH) に木材用座金付きボルト (M6 × 16), 樹脂座金 (M6) で取付けたあと、ジャバラを施薬用作溝器に取付けます。施薬用作溝器にジャバラを取付けるとき、ジャバラのゴム口を作溝器のツメにの引っ掛けます。



※イラストはサイドフロート (左) 側

- | | |
|------------------------|--|
| ① ジャバラアッシ | ⑤ リブを後側に
向けた状態で
取付ける |
| ② チューブ | ⑥ ジャバラの
ゴム口に施薬用
作溝器のツメを
引っ掛ける |
| ③ ステー (LH, RH) | |
| ④ 木材用座金付きボルト (M6 × 16) | |
| ⑤ 樹脂座金 (M6) | |
| ⑥ フロート | |
| ⑦ 施薬用作溝器 | |
| ⑧ ジャバラ | |
| ⑨ ジャバラのゴム口 | |
| ⑩ ツメ | |
| ⑪ リブ | |

組付け部品

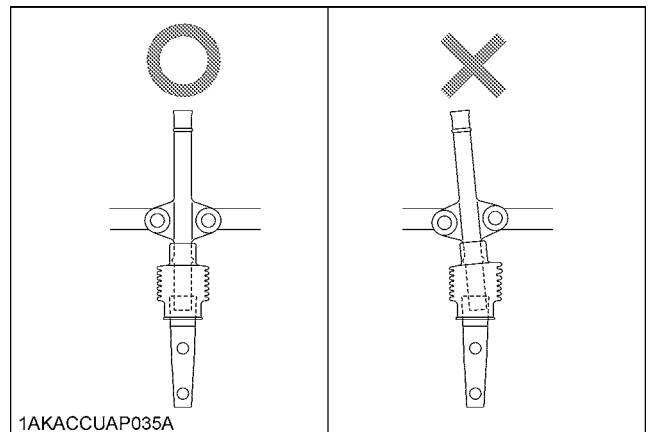
- | | |
|------------------------|------|
| * ジャバラアッシ | 6 個 |
| * 木材用座金付きボルト (M6 × 16) | 12 個 |
| * 樹脂座金 (M6) | 12 個 |

重 要

- * 施薬用作溝器のツメにジャバラのゴム口を引っ掛けるとき、ジャバラのゴム部を強く引っ張らないでください。ゴム口が破れるおそれがあります。

補 足

- * ジャバラアッシは各フロートの施薬用作溝器と各ステー (LH, RH) との間にそれぞれ 2 個ずつ取付けてください。
- * 施薬用作溝器のツメにジャバラのゴム口を必ず引っ掛けてください。薬剤が漏れるおそれがあります。
- * ジャバラアッシを取付けるときは、垂直方向に対して傾きがでないように真直ぐに取付けてください。ジャバラアッシが傾いた状態で作業を行なうと、詰まりが発生して正常に薬剤が繰出されないおそれがあります。

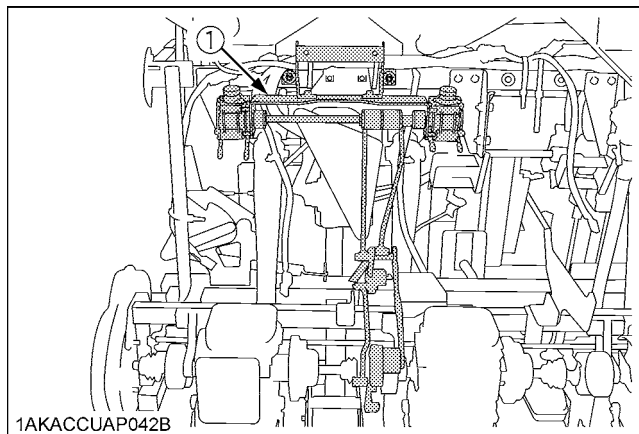


組付け作業のしかた

■駆動部アッシの取付け

補 足

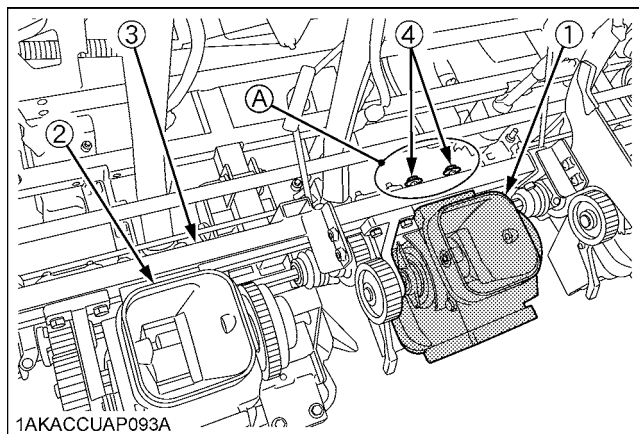
* 駆動部アッシを取付けた状態は下記の通りです。



※イラストは左側

①駆動部アッシ

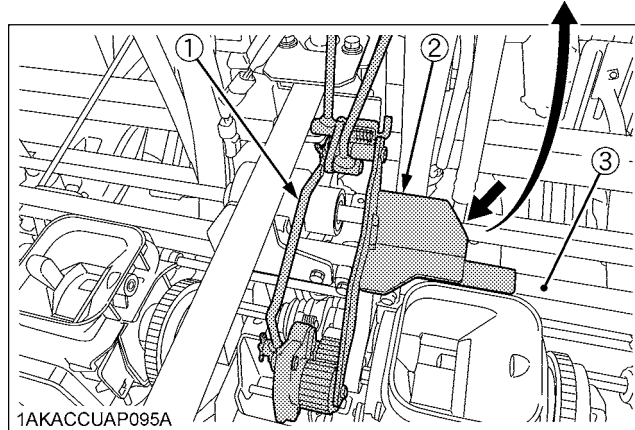
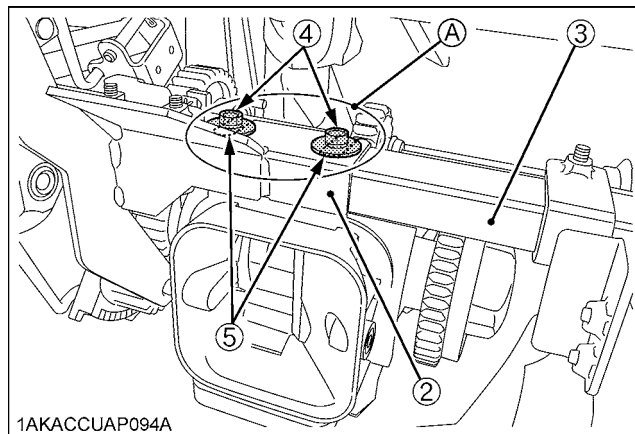
1. 機体後方から前方を見たとき、直播部の偶数条（2 条目、4 条目、6 条目）の種もみロールケースを、直播部のフレームに取付けている木材用座金付きボルト（M6 × 35）をそれぞれゆるめます。



※イラストは左側 2 条分の種もみロールケース

- | | |
|----------------------|------------------|
| ①種もみホッパ（偶数条） | Ⓐ木材用座金付きボルトをゆるめる |
| ②種もみホッパ（奇数条） | |
| ③直播部フレーム | |
| ④木材用座金付きボルト（M6 × 35） | |

2. 手順 1. でゆるめた木材用座金付きボルト（M6 × 35）の木材用座金と直播部のフレームのすき間に駆動アッシのブラケット部の取付部（長穴の切欠部）を差込んだあと、木材用座金付きボルト（M6 × 35）を少し締付け方向に回して仮止め状態にします。



- | | |
|----------------------|---|
| ①駆動部アッシ | Ⓐブラケットの長穴の切欠部を直播部フレームと木材用座金の間に差込んだあと、ボルトを仮止め状態にする |
| ②ブラケット | |
| ③直播部フレーム | |
| ④木材用座金付きボルト（M6 × 35） | |
| ⑤木材用座金 | |

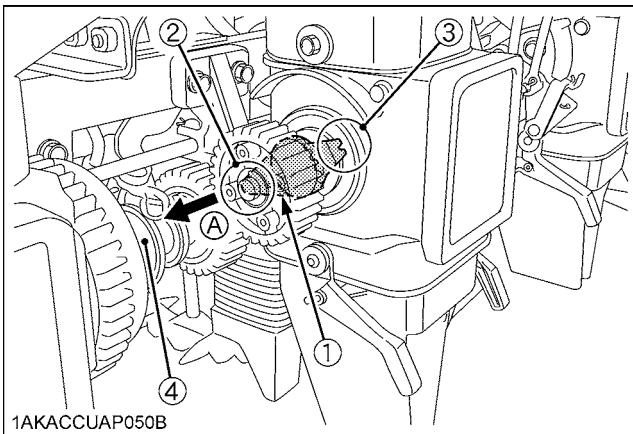
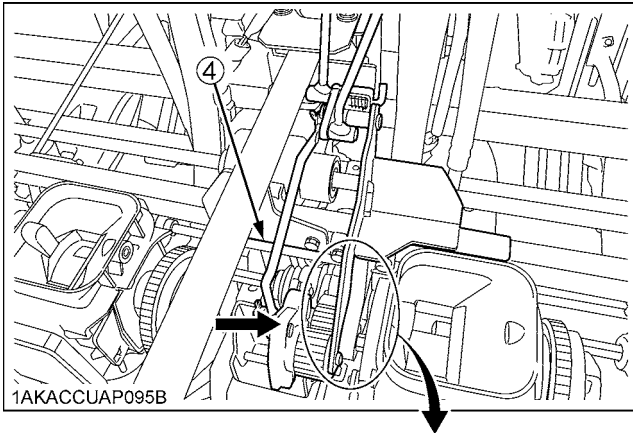
組付け部品

* 駆動部アッシ

3 個

組付け作業のしかた

3. 各条のあぜぎわクラッチレバーを【切】位置にしたあと、種もみロールケースに取付けているマーカの先端側を直播部駆動軸方向に向けます。

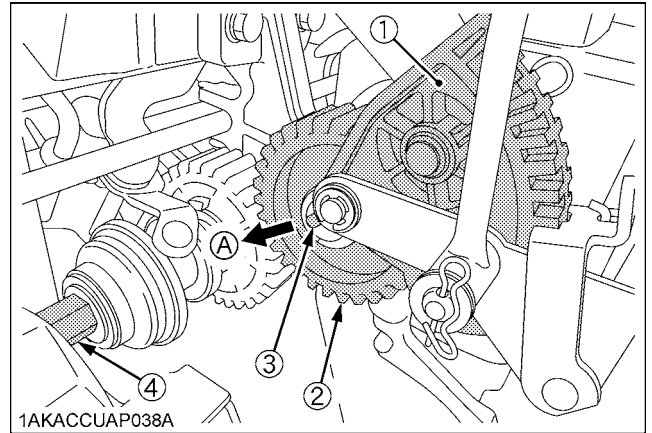


- ① マーカ
② 先端側
③ 二又側
④ 直播部駆動軸
- Ⓐ マーカの先端部を直播部駆動軸方向に向ける

補 足

- * 各種もみロールケースに取付けているマーカの先端側を直播部駆動軸方向に必ず向けて取付けてください。

4. 駆動部アッシの施薬駆動ギヤを直播部ロールギヤにかみ合わせます。このとき、施薬駆動ギヤの合いマーク（突起部）を直播部駆動軸方向に向けた状態にします。



- ① 施薬駆動ギヤ
② もみロールギヤ
③ 合いマーク（突起部）
④ 直播部駆動軸
- Ⓐ 合いマーク（突起部）を直播部駆動軸方向に向ける

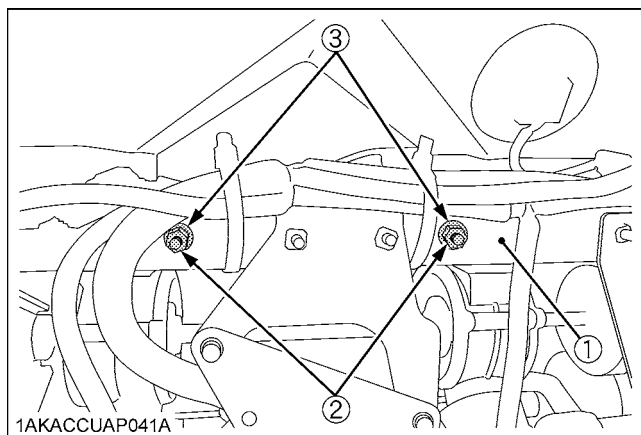
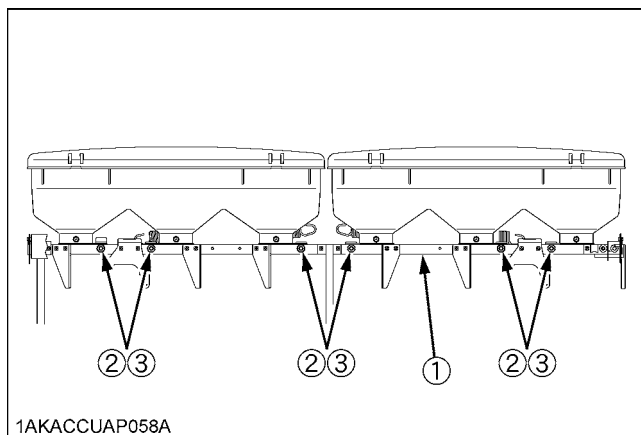
補 足

- * 手順 3, 4 は施薬駆動ギヤの向きを 3 箇所とも同じ向きにそろえるために行ないます。
- * 施薬駆動ギヤと種もみロールギヤがしっかりと噛み合っていることを確認してください。噛み合わない場合は、駆動部アッシのブラケットを上下に動かして調整してください。
- * 偶数条 3 箇所（2 条目、4 条目、6 条目）共に、各施薬駆動ギヤの合いマーク（突起部）を直播部駆動軸方向に必ず向けて取付けてください。

組付け作業のしかた

5. 駆動部アッシを施肥部のフレームと直播部のフレームに固定します。

(1) 施肥部のフレームに取付けているナット (M6) と平座金 (M6) 各 6 個を取外します。



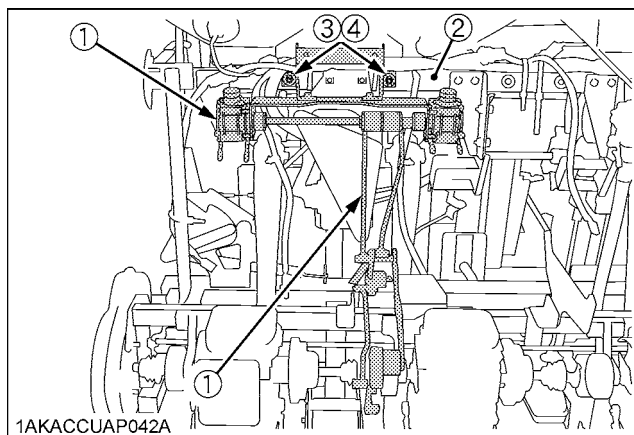
- ①施肥部フレーム
- ②ナット (M6)
- ③平座金 (M6)

再使用部品

- * ナット (M6)
- * 平座金 (M6)

6 個
6 個

(2) 駆動部アッシ上部のブラケットを施肥フレームに**手順 (1)** で取外したナット (M6) と平座金 (M6) でそれぞれ仮止め状態で取付けます。

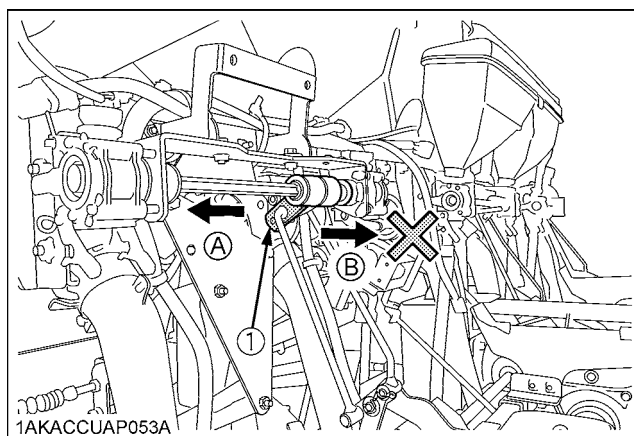


※イラストは左側

- ①駆動部アッシ上部のブラケット
- ②施肥部フレーム
- ③ナット (M6)
- ④平座金 (M6)

重 要

* 駆動部アッシ上部のブラケットを施肥フレームに仮止め状態で取付けるとき、駆動アームを前側 (機体側) に向けた状態で組付けてください。駆動アームを後側にに向けた状態で取付けると、施肥機が正常に作動しないため、施肥が出来なくなるおそれがあります。



※イラストは左側

- ①駆動アーム
- A 前側 (機体側)
- B 後側

補 足

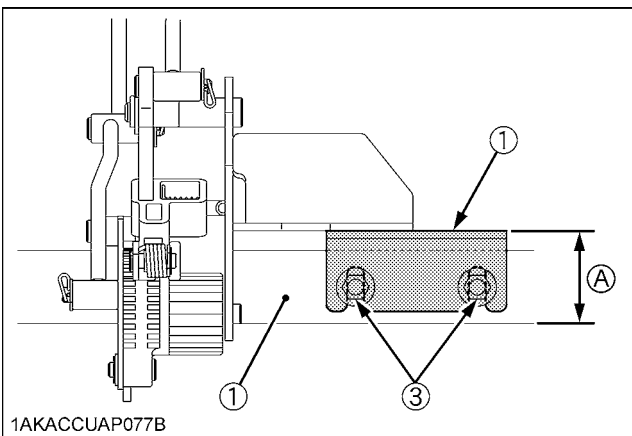
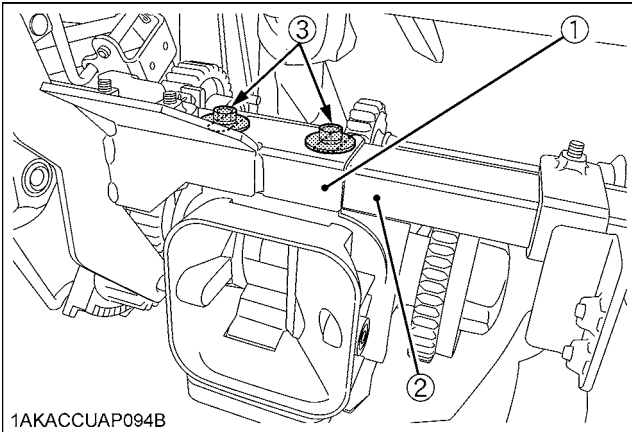
* 偶数条 3 箇所 (2 条目, 4 条目, 6 条目) 共に、駆動部アッシ上部のブラケットを施肥フレームに取付けてください。

組付け作業のしかた

- (3) **手順 (2)** で駆動部アッシ上部のブラケットを仮止めしたナット (M6) 及び**手順 2.** で直播部フレームに仮止めしたボルト (M6 × 35) をそれぞれ締付けます。

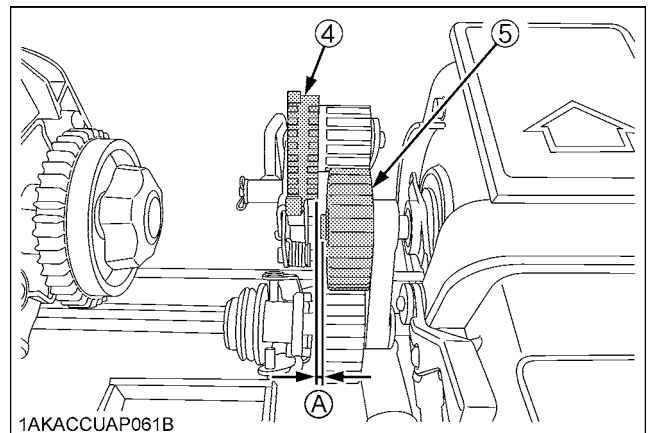
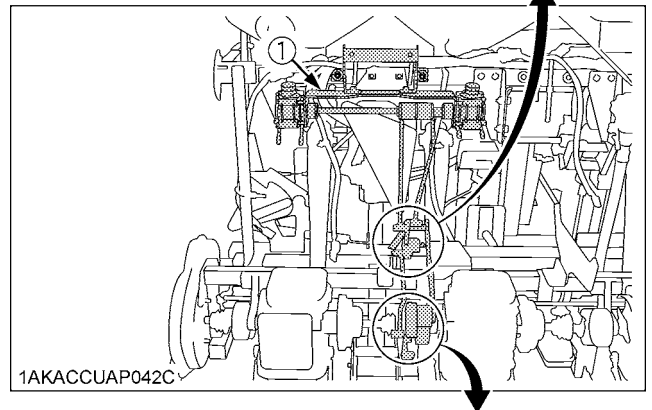
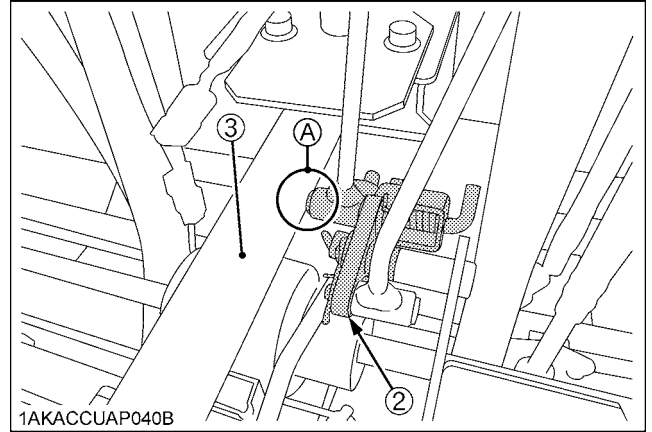
重要

* ボルト (M6 × 35) を締付けるときは、駆動部アッシのブラケットをしっかり押さえ付けて直播部フレームに対して平行状態で締付けてください。直播部フレームに対してブラケットが傾いていると、施業機の駆動系にトラブルが発生するおそれがあります。



- ①駆動部アッシのブラケット ④平行状態にする
②直播部フレーム
③ボルト (M6 × 35)

* 駆動部アッシの各ボルト、ナットを締付けたあと、駆動部アッシの施業駆動ギヤと種もみロールの軸端部及び駆動部アッシの株間調節金具とこまきちゃん取付けフレームが接触しているときは、各ボルト及び各ナットをいったんゆるめて、接触しないように組み直してください。部品の破損や駆動系統にトラブルが発生するおそれがあります。



- ※イラストは左側
④接触しないこと
①駆動部アッシ
②株間調節金具
③こまきちゃん取付けフレーム
④施業駆動ギヤ
⑤種もみロールギヤ

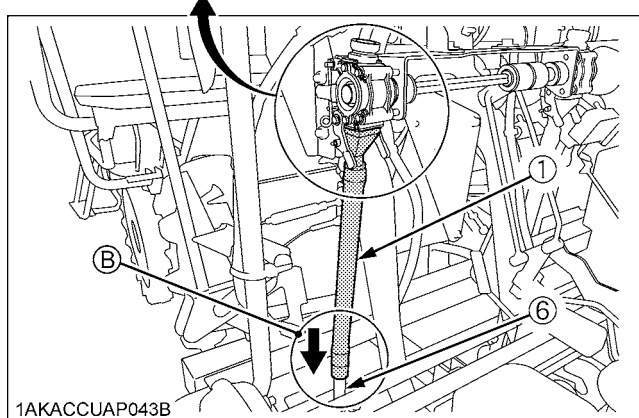
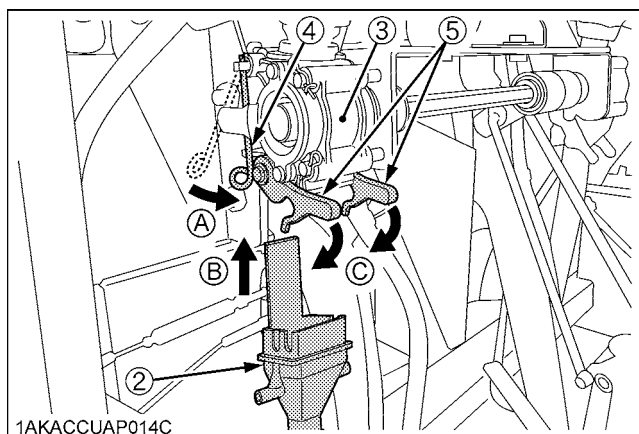
補足

* 偶数条 3 箇所 (2 条目, 4 条目, 6 条目) 共に、駆動部アッシと各部が接触しないように取付けてください。

組付け作業のしかた

■チューブアッシの取付け

1. ブラシロックレバーを収納位置に戻します。
2. 駆動部アッシのロールケースとジャバラアッシのホースにチューブアッシを取付けます。
 - (1) ロールケースにチューブアッシ上部にあるロートを差込んで取付けたあと、ロートをロートロックレバーでロックして固定します。
 - (2) チューブアッシ下側のチューブをジャバラアッシのホースに差込んで取付けます。



※イラストは左側

- | | |
|------------------|--------------|
| ①チューブアッシ | ④ブラシロックレバー |
| ②ロート (チューブアッシ上部) | ⑤ロートロックレバー |
| ③ロールケース | ⑥ジャバラアッシのホース |
| ④ブラシロックレバー | |
| ⑤ロートロックレバー | |
| ⑥ジャバラアッシのホース | |

組付け部品

* チューブアッシ

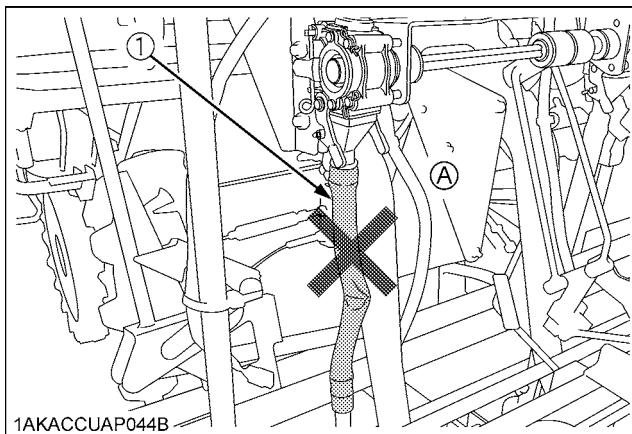
6 個

補 足

- * 同じ要領でチューブアッシを全条取付けてください。
- * ロートをロールケースに取付けられないため、ブラシロックレバーを必ず収納位置に戻してからロートを取付けてください。

重 要

- * ジャバラアッシのホースにチューブアッシのチューブを差込むときは、チューブが真っ直ぐなるまでしっかりと差込んでください。チューブが折れ曲がった状態で施薬作業を行なうと薬剤が詰まる原因となります。



①チューブアッシ

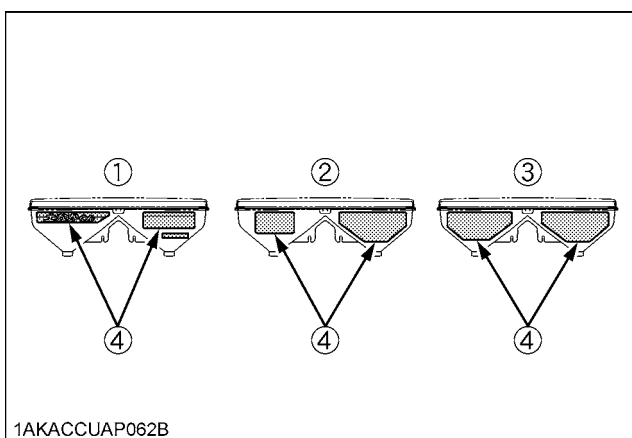
②チューブの折れ曲がりに注意

■施薬用ホッパの取付け

1. 駆動部アッシの各ロールケース上部に施薬用ホッパ、施肥部フレームにガイドをそれぞれ取付けます。

補 足

- * 各施薬用ホッパ (3 個) はそれぞれ取付位置がありますので取付位置を間違えないように注意してください。機体後方から前方を見たとき、出荷時に各ホッパに貼っている各ラベルの貼付位置の状態が下図の位置にそれぞれ取付けてください。

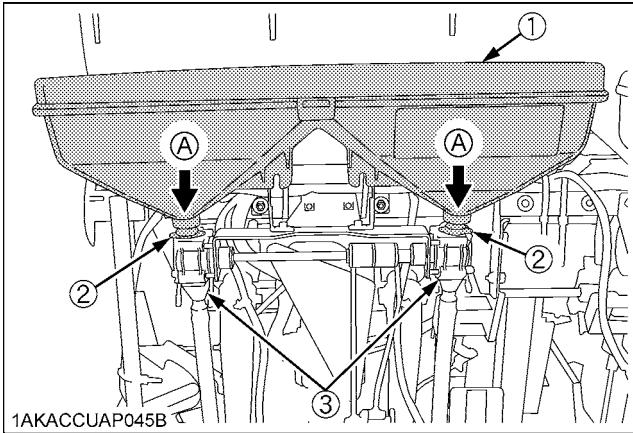


※イラストは機体後方から前方を見た状態

- ①施薬用ホッパ (左側)
- ②施薬用ホッパ (中央部)
- ③施薬用ホッパ (右側)
- ④ラベル

組付け作業のしかた

- (1) 駆動部アッシのロールケース上部にホッパ継手部を取付けたあと、ホッパ継手部にホッパの差込み部を奥までしっかりと差込んで施薬用ホッパを取付けます。



※イラストは左側

- ①施薬用ホッパ
②ホッパ継手部
③ロールケース

Ⓐ奥までしっかりと差込む

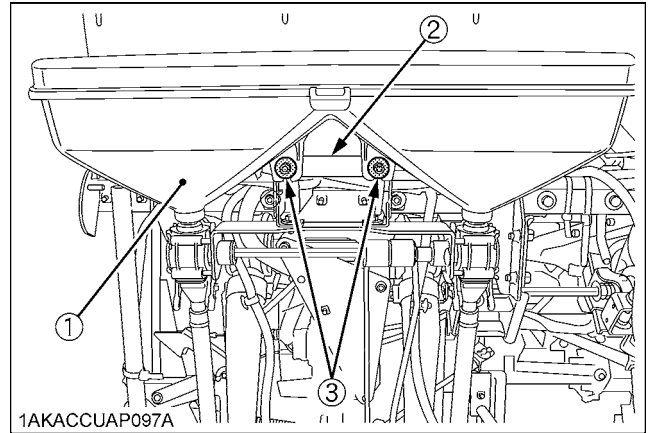
組付け部品

- * ホッパ継手部 6 個
- * 施薬用ホッパ 3 個

補 足

- * 同じ要領でホッパ継手部、施薬用ホッパを取付けてください。
- * 施薬用ホッパをホッパ継手部に差込んで取付けるとき、施薬用ホッパが左側又は、右側に傾かないよう水平状態で取付けてください。施薬用ホッパが傾いていると薬剤の詰まりや繰出し量に異常が発生するおそれがあります。

- (2) 駆動部アッシのブラケットに木材用座金付きボルト (M6 × 20) 2 本、樹脂座金 (M6) 2 個を取付けて施薬用ホッパを固定します。



※イラストは左側

- ①施薬用ホッパ
②ブラケット
③木材用座金付きボルト (M6 × 20), 樹脂座金 (M6)

組付け部品

- * 木材用座金付きボルト (M6 × 20) 6 個
- * 樹脂座金 (M6) 6 個

補 足

- * 同じ要領で他のホッパも全て固定してください。

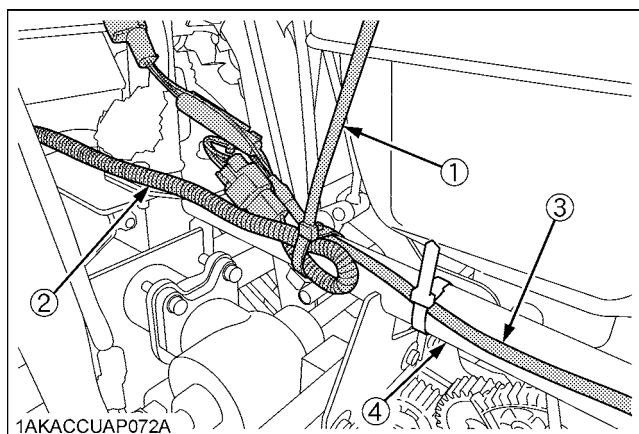
組付け作業のしかた

■こまきちゃん、種もみホッパの取付け

組付け手順の【■組付け前の準備】のところで取外した逆の手順でこまきちゃん及び種もみホッパを取付けます。

補 足

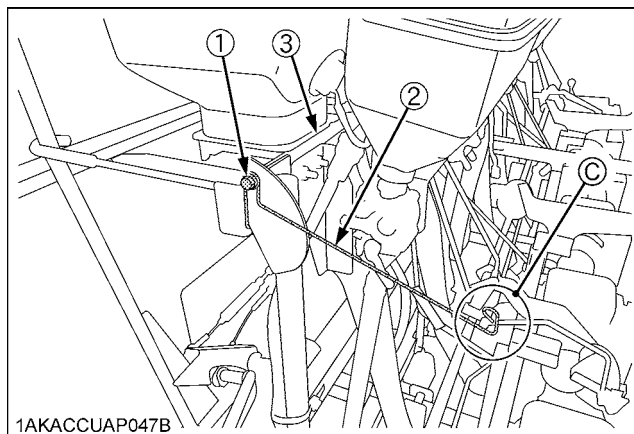
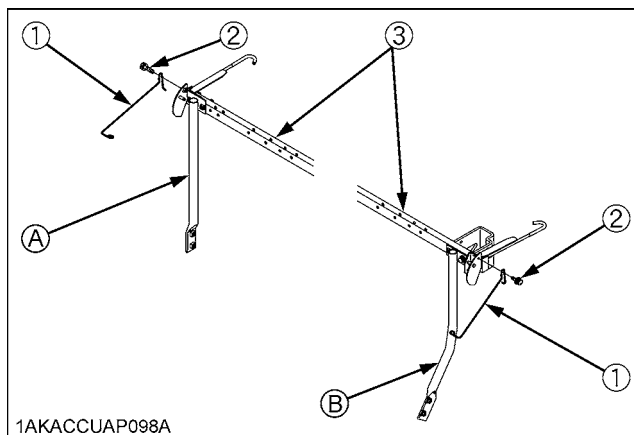
* 種もみホッパを取付けたあと、こまきちゃんを必ず取付けてください。また、こまきちゃんを取付けるときは、こまきちゃんと近接センサのワイヤハーネスと施肥機の駆動部が接触しないように、下図のようにこまきちゃん取付けポストの左側にコードバンドのロックをいったん解除したと、ワイヤハーネスを束ねてコードバンドを締付けて配線してください。



- ①コードバンド
- ②近接センサのワイヤハーネス
- ③こまきちゃんワイヤハーネス
- ④こまきちゃん取付けポスト

■ホッパガイドの取付け

組付け手順の【■組付け前の準備】のところで取外した再使用部品の樹脂カバー取付けボルト (M6 × 25) 2 本で施肥部フレームの左、右 2 箇所にホッパガイドを取付けます。このとき、ホッパガイドはL字部を機体の内側方向に向けた状態でそれぞれ取付けます。



- ①ボルト (M6 × 25)
(再使用部品)
- ②ホッパガイド
- ③施肥部フレーム

※イラストは左側

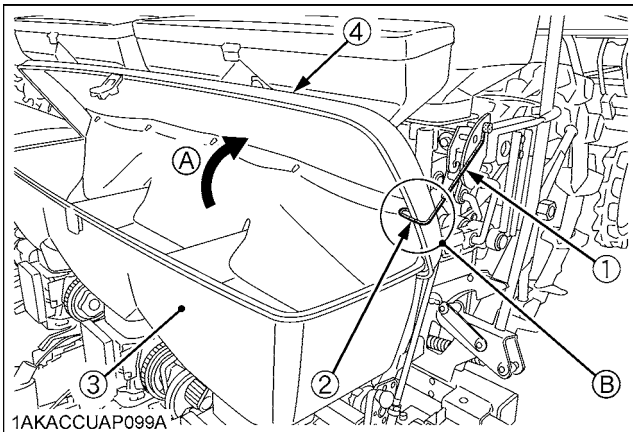
- Ⓐ左側
- Ⓑ右側
- ⒸL字部を機体の内側に
向ける

組付け部品

- * ホッパガイド(左) 1 個
- * ホッパガイド(右) 1 個

補 足

- * ホッパガイド（左）、（右）の取付け方向に注意してください。
- * ホッパガイドは種もみ用ホッパのふたを開いた状態を保持するための部品です。種もみの補給時などふたを開いた状態で保持するときは、下図のようにホッパガイドの L 字部にふたを掛けてください。



※イラストは右側

- ①ホッパガイド
- ②L 字部
- ③種もみホッパ
- ④ふた

- Ⓐ開く
- Ⓑふたを L 字部に掛ける